

Amberite



J SERIES

U S E R M A N U A L



本取扱説明書は車両の永続的な一部とみなされ、車両の転売または他者への譲渡時には車両とともに引き渡されるものとします。本取扱説明書には安全に関する重要な情報および注意事項が含まれていますので、車両の操作前に必ず熟読してください。

重要な情報

車両の慣らし運転について

車両の最初の走行距離1,000kmは、車両の全寿命において最も重要な役割を果たします。この期間中、適切な慣らし運転を行うことで最長の耐用年数を確保し、新車の性能を最大限に発揮させることができます。当社の車両部品は高品質な素材で製造され、精密に加工されています。慣らし運転により部品表面が滑らかになり、スムーズな嵌合面が形成されます。

丁寧で根気強い慣らし運転により、車両は安定した走行を維持し、優れた性能を十分に発揮できます。長時間の高速エンジン回転などエンジン部品の過熱を引き起こす操作を避けることが特に重要です。

具体的な慣らし運転方法については「慣らし運転と乗車前点検」の項を参照してください。

危険／警告／注意

本書の内容をよく読み、要点を覚えてください。「危険」「警告」「注意」は注意事項の重要度を強調するために使用されていますので、その定義をよく理解してください。

DANGER

この用語は、乗車者の人身安全に関わる事項を示し、無視すると負傷する可能性があります。

WARNING

この用語は、車両の損傷を避けるための操作上の注意事項を示します。

注意：

この用語は、メンテナンスを容易にするため、または重要な指示をより分かりやすくするために具体的に説明される事項を示します。

はじめに

この度は本車両をお選びいただき、誠にありがとうございます。
本車両は最先端の技術を駆使して設計・試験・製造されており、
楽しく安全なライディングをお届けします。本書の要点を把握されれば、バイクの操縦は最も爽快なスポーツの一つであることを実感いただけるでしょう。

本取扱説明書は、車両の適切な修理およびメンテナンスについて説明しています。
本書の規定に従えば、車両を長期間故障なくご使用いただけます。
当社のサービス工場には専門的な訓練を受けた技術者と充実した工具・設備が揃っており、高品質なサービスを提供する準備が整っています。

本書に掲載されている情報、図表、写真および仕様は、本書発行時点での最新製品に基づいています。ただし、継続的な改良・改善およびその他の変更により、お客様の車両が本書の内容と一部異なる場合があります。販売店が常に正しい情報をご提供いたします。当社は予告なく変更を行う権利を有します。

本書の仕様は全構成のモデルを網羅して説明しています。そのため、お客様のモデルは本書の標準構成と異なる場合があります。

目次

使用上の注意	(1-5)
車両概要	(6-9)
操作方法	(10-25)
燃料・エンジンオイル・冷却液・ギアオイルの使用上の注意	(26-27)
慣らし運転と乗車前点検.....	(28-30)
走行時の注意事項	(31-35)
点検・整備	(36-55)
トラブルシューティング	(56-57)
車両の保管・清掃・輸送	(58-63)
諸元	(64-65)

使用上の注意

アクセサリ	(2-3)
改造	(3)
安全走行に関する注意.....	(3-4)
VIN（車台番号）の位置	(4)
製品モデル構成方法.....	(4)
構成に関する注意	(4)
特別警告	(4-5)
マフラーのメンテナンス	(5)

使用上の注意

アクセサリー

市場では車両に取り付け可能な幅広いアクセサリーが入手可能ですが、当社は市場で販売されるアクセサリーの品質や適合性を直接管理しておりません。

不適切なアクセサリーは乗車者や同乗者の安全を脅かす可能性もあります。

そのためアクセサリーの選択と取り付けには特に注意が必要です。各アクセサリーの適合性を確認することはできませんが、販売店が品質の良いアクセサリーの選択と正しい取り付けをお手伝いします。

アクセサリーの選択と取り付けにあたり、仕様の決定と取り付け方法を理解できるようガイドラインを策定しました。

DANGER

！危険！

不適切に取り付けられたアクセサリーや車両の改造は操縦性を変化させ、事故の原因となります。不適切なアクセサリーを使用せず、正しく取り付けてください。すべてのアクセサリー、部品は純正品をご使用ください。正しく取り付け、問題がある場合は当社指定の正規販売店またはサービス工場にご連絡ください。

重量のあるアクセサリーや風の影響を受けやすいアクセサリーは、できるだけ低い位置で車体に近く、重心付近に取り付けてください。ラックや取り付け部品がしっかりと固定されていることを確認してください。取り付けが不十分な場合、重心が移動し危険です。

取り付けの要点：

左右のバランス、堅固さと安定性に注意。アクセサリー取り付け時は適切な地上高とサイドキャンバーを確認してください。不適切な取り付けは安全係数を低下させます。

不適切なアクセサリーは操縦困難や走行危険を引き起こす可能性があります。サイズは空気抵抗や操縦安定性に直接影響します。サスペンション、ステアリング、制御システムなどの正常な動作を妨げないように注意してください。

ステアリングハンドルやフロントフォークに取り付けるアクセサリーは深刻なアンバランスを引き起こし、ステアリングの柔軟性を低下させ、前輪の振動や走行不安定を招く可能性があります。できるだけ軽量なものにしてください。

ウインドシールド、バックレスト、サドルバッグ、トランクはいずれも風の影響を受けやすく走行を不安定にするアクセサリーです。適切に取り付けられていない場合や設計の悪いアクセサリーは走行の安全性を脅かす可能性があります。

一部のアクセサリは運転者の乗車姿勢を通常の位置から逸脱させる可能性があり、運転者の動作範囲だけでなく、操縦能力も制限されます。

追加の電装アクセサリは電気系統に過負荷をかける可能性があり、深刻な過負荷は配線を損傷させたり、走行中にエンジンを停止させたり、車両を燃やす可能性さえあります。

車両で荷物を輸送する場合は、できるだけ低い位置に、車両にできるだけ近づけて固定してください。

不適切に固定された荷物は重心を上げ、危険であり、車両の制御を困難にします。荷物の大きさは空気抵抗、さらには車両の操縦性にも影響します。そのため、車両の左右で荷物のバランスをとり、しっかりと固定してください。

改造

車両の無断改造や純正部品の取り外しは、車両の安全性と合法性を保証するものではありません。お客様による改造は、品質保証を受ける権利を喪失させます。

安全走行に関する注意事項

バイクの走行はとても楽しくエキサイティングなスポーツですが、乗車者と同乗者の安全を守るためにいくつかの特別な注意が必要です。

注意事項は以下の通りです：

ヘルメット

安全基準と品質基準を満たすヘルメットを選ぶことが、走行と保護のための第一歩です。最も深刻な事故は頭部の負傷であるため、乗車者と同乗者は必ず安全ヘルメットと保護メガネを着用してください。

服装

ゆるくて奇抜な服装は走行時に不快で、危険になる可能性がありますので、品質の良い体にフィットするバイク用ウェアをお選びください。

乗車前点検

「乗車前点検」の項目の内容をよくお読みになり、説明に従って各項目を確認し、乗車者と同乗者の安全のために決して怠らないでください。

車両への習熟

お客様の運転技術と機械知識は安全走行の前提条件です。車両の機械的特性と操作に完全に習熟するまで、車両の少ない広い場所で練習してください。忘れないでください！練習あるのみです。

運転技術

常にご自身の技量の範囲内で走行してください。走行中に自分の技量の限界を知ることが、事故を避ける唯一の方法です。

雨天走行時の注意事項

雨天時の走行には特に注意を払い、制動距離が晴天時の2倍になることを常に心がけてください。スリップ防止のため、走行中はペイントによる路面標示、マンホールの蓋、油の付いた路面を避けてください。踏切、柵、橋を通過する際は細心の注意を払って走行してください。路面状況が明確に判断できない場合は減速してください。

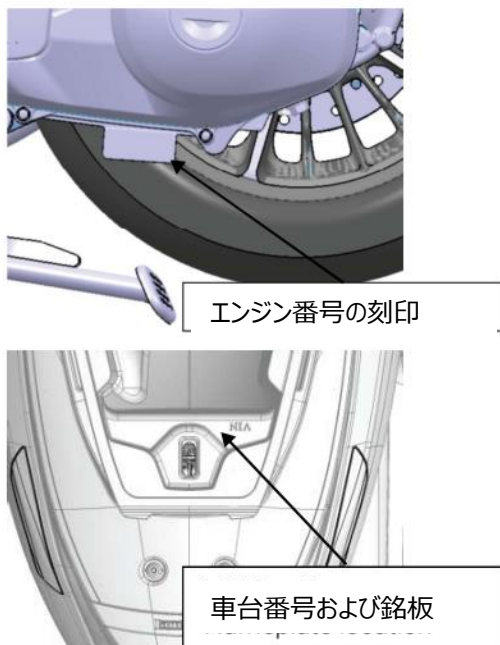
速度制限

車両の速度を出しすぎないようにし、事故を避けるためいかなる時もエンジンの回転を上げすぎないようにください。

走行戦略

バイク事故の大半は、ライダーが右左折してくる車両に衝突されるケースです。賢明な走行戦略は、他のドライバーからご自身が見えるようにすることです。安全反射素材の付いた目立つ服装を着用し、日中の広い路面での走行時でも同様にしましょう。他のドライバーの死角で走行しないでください。

VIN（車両識別番号）の位置



車両識別番号（VIN）とエンジン番号は車両の登録に使用されます。また、アクセサリーの注文や特別なサービスの依頼の際に、これらの番号により販売店がより良いサービスをご提供できます。

- エンジン番号はエンジン左側、クランクケースカバーの下に位置しています。
 - VINは収納スペースの下に位置しています。
 - 銘板は収納スペースの下に位置しています。
- 将来の参照のために以下に番号をお書きください。
- VIN :
 - エンジン番号 :

製品型式の表記方法

- 製品型式 : J200
- 企業（または登録商標）コード : LAMBRETTA
- エンジン公称排気量 : 175 CC
- 車両タイプ : T（スクーター）

仕様に関する注意事項

本書に記載されている車両には様々な仕様があります。本書の図解は1つまたは複数の仕様のみを表しており、すべてを表しているわけではありません。具体的な仕様は実物に基づいてください。

特別警告

以下およびこれに類する項目に違反した場合、部品や構成部品または車両の損傷、さらには乗車者や同乗者の負傷または死亡につながる可能性があることにご注意ください。

⚠ DANGER

- サイドスタンドは、走行中にステアリング操作時に車両が転倒し、乗車者および同乗者が負傷または死亡することを防ぐため、走行前に必ず格納してください。
- 前後のブレーキシステムは、走行前に正常に作動するか確認してください。問題がある場合は、直ちに整備を受けてください。

⚠ WARNING

- 燃料ラインの取り外しおよび燃料の排出は、車両の損傷を避けるため、専門家のみが行ってください。火気のある場所では特に注意してください。車両のマフラーを異物から遠ざけ、火災の発生を防止してください。車両の使用および保管環境を潜在的な火災の危険から遠ざけてください。
- 車両の整備過程で部品の交換が必要な場合は、必ず純正部品を使用してください。純正品以外の部品、特に純正品以外の電装部品は、車両を損傷させたり、焼損させたりする恐れがあります。
- アクセサリを無断で追加しないでください。特に電装部品は、配線が適切でない場合や電気負荷が大きすぎる場合、車両を焼損させる恐れがあります。

マフラーのメンテナンス

マフラーには排気ガス汚染物質の排出を削減するために、内部に触媒が装備されています。マフラーの正常な機能を維持し、耐用年数を向上させ、異常な使用やメンテナンスによって引き起こされる排気ガス変換効率の低下、錆び、変色などの不具合を防止するため、以下の事項を必ず遵守してください。

⚠ DANGER

マフラーはエンジン稼働中またはエンジン停止直後は高温になるため、火傷を防ぐために触れないでください。

⚠ WARNING

- 長時間の高スロットル使用は禁止です。
- マフラーに防錆油またはエンジンオイルを注入することは禁止です。
- 高温状態のマフラーに冷水を直接かけることは禁止です。
- エンジンを停止した状態での惰行走行は禁止です。
- 粗悪なガソリンの使用は禁止です。
- マフラー表面およびテール部分の汚れは速やかに除去してください。
- 定期的なメンテナンスと点検でエンジンを良好な状態に維持してください。エンジン燃焼不良による排気ガス温度の上昇で触媒が焼損することを防止してください。
- マフラーを取り付ける際は、マフラーガスケットを正しく取り付けてください。
- 酸素センサーの取り外しが必要な場合は、当社指定のサービスショップで対応する必要があり、マフラーと酸素センサーが室温まで冷却された後に取り外しを行ってください。

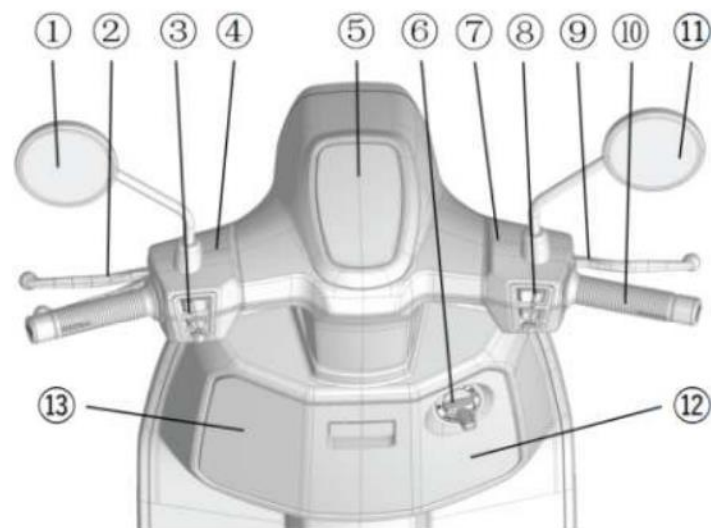
車両の概要

部品およびコンポーネントの取り付け位置..... (7-9)

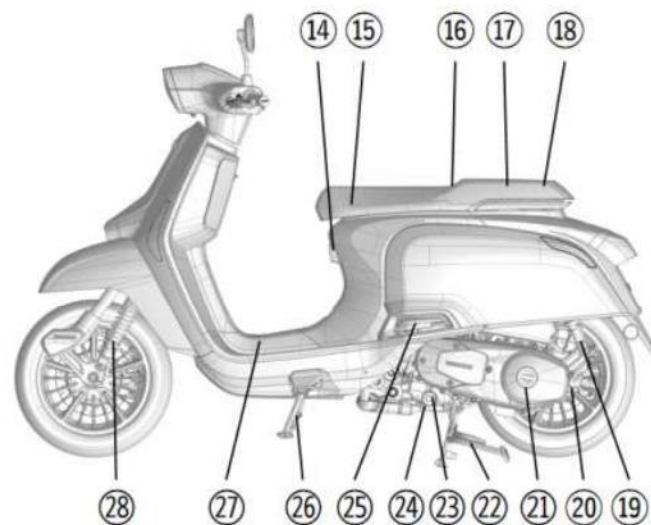
車両の概要

部品およびコンポーネントの取り付け位置

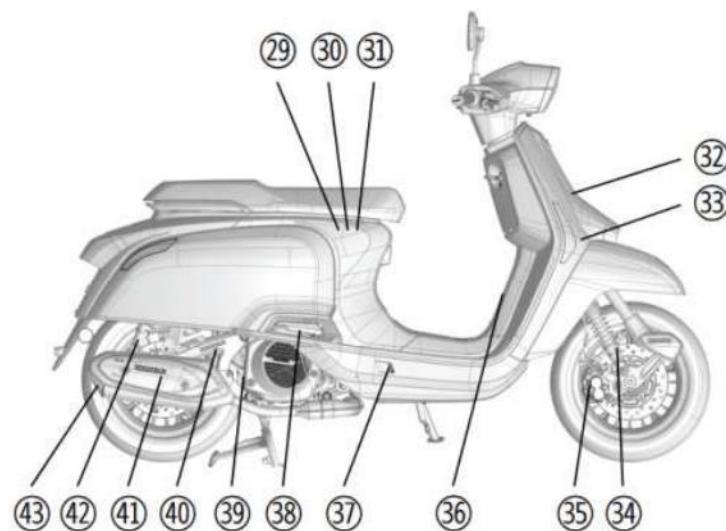
1. 左バックミラー
2. リアブレーキレバー
3. 左スイッチ群
4. リアブレーキ液リザーバー
5. メーターパネル
6. ステアリングロックアセンブリ
7. フロントブレーキ液リザーバー
8. 右スイッチ群
9. フロントブレーキレバー
10. 燃料注入口
11. 右バックミラー
12. 収納ボックス
13. USB電源ポート（収納ボックス内）



- 14. ラゲッジフック
- 15. バッテリー
- 16. シート
- 17. 車両付属工具 (シート内)
- 18. 銘板 (収納ボックス後方下部)
- 19. リアショックアブソーバー
- 20. ギアボックスオイルドレンプラグ
- 21. エンジン
- 22. メインスタンド
- 23. エンジンオイルフィルターエレメント
- 24. エンジンオイルドレンプラグ
- 25. 左補助ランニングボード
- 26. サイドスタンド
- 27. 燃料タンク (フットレスト下部)
- 28. フロントショックアブソーバー



29. ECU（収納ボックス右側下部）
30. OBD診断インターフェース（収納ボックス右側下部）
31. ヒューズボックス（収納ボックス中央下部）
32. BCM（フロントカバーパネル内）
33. ホーン（フロントカバーパネル内）
34. フロントショックアブソーバー
35. フロントブレーキキャリパー
36. 燃料注入口キャップカバー
37. リザーバタンク
38. 右補助ランニングボード
39. オイル注入口
40. リアロッカーアーム
41. マフラー
42. リアショックアブソーバー
43. リアブレーキキャリパー

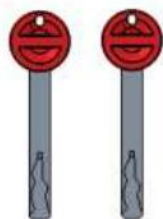


操作方法

イグニッションキー.....	(11)
ステアリングロックアッセンブリ.....	(11)
リモートキー.....	(12-13)
メーターパネル.....	(13-20)
左コンビネーションランプスイッチ.....	(20-21)
右スイッチ	(21-22)
燃料タンク.....	(22)
ブレーキ	(23)
バックミラー	(23)
ヘッドライト	(23-24)
駐車	(24)
前後ショックアブソーバー	(25)

操作方法

キー



この車両には2本のキーが付属しています。そのうち1本は予備として大切に保管してください。

ステアリングロックアセンブリ



● ステアリングロックアセンブリには5つのポジションがあります：

1. 「」 (ON) ポジションでは、イグニッション回路が接続され、いつでもエンジンを始動できます。このポジションではキーを抜くことはできません。
2. 「」 (OFF) ポジションでは、イグニッション回路が遮断され、エンジンを始動できず、キーを抜くことができます。

3. 「」 (シートロック) ポジションでは、シートを開くために、「」 ポジションでキーを反時計回りに「」 ポジションまで回すと、シートが自動的に開きます。

シートが開いた後、キーを離すと、キーは自動的に「」 ポジションに戻り、この時点でキーを抜くことができます。シートを閉じるには、シートを押し下げて所定の位置にはめ込んでください。

4. ステアリング機構をロックするには、まずステアリングハンドルバーを完全に左に切ります。次に、キーを「」 ポジションにした状態で、しっかり押し下げながら反時計回りに「」 ポジションまで回してロックします。これでキーを抜くことができ、すべての回路が遮断されます。

5. 「」 ポジション：「」 (ON) ポジションからキーを時計回りに「」 ポジションまで回すと、燃料注入口キャップカバーのロックが解除されます。エンジンが稼働中の場合、直ちに停止します。

⚠ DANGER

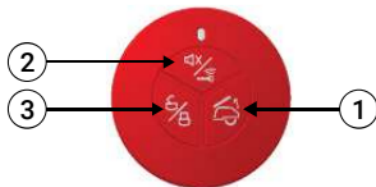
- イグニッションスイッチを「」 ポジションに回す前に車両を停車させ、その後サイドスタンドで車両を駐車してください。
- ステアリング機構がロックされた状態で車両を押さないでください。車両がバランスを失います。
- 走行中にイグニッションスイッチのキーを「」 ポジションに回さないでください。車両が制御不能になります。

リモートキー



この車両には2個のリモコンキーが付属しています。そのうち 1個は予備として大切に保管してください。

車両の位置の確認



キーが「」ポジションの時、車両全体の電源がオフになります。この時、車両位置確認ボタン②を短く押すと、前後のウインカーが点滅し、ブザー警報音が鳴り、車両の位置を確認することができます。

ロック解除

- ・ リモートキーによるロック解除
- 1. ステアリングロックノブを押し下げます。ロックカバーが点灯し、電磁バルブの作動音が聞こえたら、車両のロックが解除されます。

2. リモートキーのロック解除ボタン③を短く押します。ロックカバーが点灯し、電磁バルブの作動音が聞こえたら、車両のロックが解除されます。

- ・ メカニカルキーによるロック解除

予備のメカニカルキーをステアリングロックアセンブリの鍵穴に差し込んで、車両のロックを解除します。

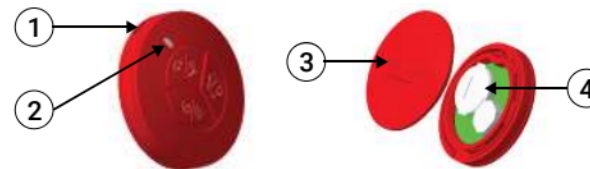
シートの開け方

シートロック解除ボタン①を2秒間長押しすると、シートロックが解除され、収納ボックスにアクセスできます。

注意：

走行の安全を確保するため、走行中は①ボタンが無効になります。

リモートキーのバッテリー残量低下。



リモートキーを短く押すまたは長押ししても車両が反応せず、以下の状況が発生した場合、リモートキーのバッテリー残量が低下しています。速やかにリモートキーのバッテリーを交換してください。

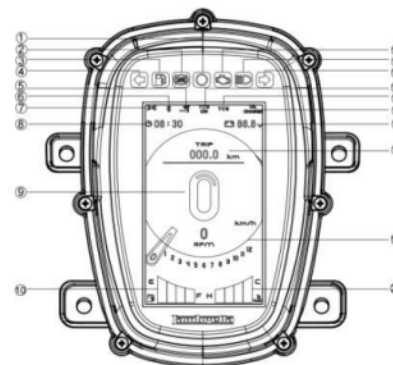
- ・ リモコンインジケータライト②が作動しない。
- ・ イグニッションをオンにすると、メーターパネルの故障メニューに「リモートキーバッテリー残量低下」というメッセージが表示され、リモートキーのバッテリー交換が必要であることを示します。

1. リモートキーの損傷を防ぐため、側面の溝①から開けてください。
2. リモートキーの裏カバー③を開き、バッテリー④を取り外してください。
3. 古いバッテリーは法令に従って処分してください。家庭ゴミとして廃棄しないでください。
4. 指定のバッテリー型番 CR 2032 を使用し、取り付けてください。
5. リモートキーの裏カバー③を再び取り付けてください。
6. リモートキーのいずれかのボタンを一度短く押してリセットしてください。

注意：

互換性のない、または不適切に取り付けられたバッテリーを使用すると、部品の損傷を引き起こす可能性があります。
バッテリーを取り付ける際は、正しい極性に注意してください。

インストルメンタル・クラスター（メーター）



キーを「」の位置から「」の位置に回すと、メーターパネルがセルフチェックを実行します：

- タコメーター⑲が0から12,000rpmまで動作します。
- 燃料レベル⑩と水温表示⑳が0バーから4バーまで表示されます。
- 燃料レベル警告インジケーター③、左ウインカーインジケーター④、ハイビームインジケーター⑫、オイル交換インジケーター⑯、Bluetoothインジケーター⑥、右ウインカーインジケーター⑬、キー検知インジケーター⑤が点灯した後、消灯します。
- ポジションライトインジケーター⑦、エンジン異常警告灯（MIL）⑪、ABS MIL②が点灯します。エンジンMIL⑪は始動後に消灯します。ABS MIL②およびTCS MIL⑮は車両速度が5km/h以上になると消灯します。TCS MIL⑮はスイッチをオンにすると消灯します。これらのインジケーターのいずれかに異常がある場合、該当するインジケーターは点灯したままになります。

⚠ WARNING

メーターパネルに高圧水を直接かけないでください。ガソリン、灯油、アルコール、ブレーキフルードなどの有機溶剤を含んだ布でメーターパネルを拭かないでください。有機溶剤に触れることでメーターパネルに局所的なひび割れや変色が生じる恐れがあります。

バッテリー電圧リアルタイム表示

バッテリー電圧表示は、現在のバッテリー電圧を表示します。バッテリー電圧が11V以下の場合、バッテリーを取り外し、専用充電器で充電してください。

⚠ WARNING

バッテリー電圧が11V以下の場合、バッテリーを取り外して充電しないと、バッテリーの寿命が短くなります。

エンジン回転数表示

エンジン始動後、エンジン回転数が表示されます。

⚠ WARNING

エンジン始動後は、エンジン回転数をできるだけレッドゾーン以下に保ってください。エンジン回転数を長時間レッドゾーンにとどめないようにすることで、エンジン寿命が向上します。

エンジン回転数信号が表示されない場合は、メーターパネルがエンジン回転数信号を受信していないか、メーターパネルに問題があることを示しています。その場合、スロットル開度を70%以下に保ってください。当社指定のサービスショップにてエンジン回転数信号の点検を依頼してください。

車両速度表示 ⑨

このLCD画面には2つの表示モードがあります。メーターパネル調整ボタンを使用して、車両速度表示のメートル法とヤード・ポンド法を選択できます。具体的な調整方法については、メーターパネルメニューの表示・設定セクションを参照してください。

⚠ WARNING

車両走行中に速度が表示されない場合は、メーターパネルが速度信号を受信していないか、メーターパネルが故障しています。当社指定の専門サービスショップにて点検・修理を依頼してください。

走行距離表示 ⑱

走行距離表示にはTRIPとODOの走行距離が含まれており、ボタンでメーターパネル表示を切り替えることができます。

オドメーターの範囲は999,999kmで表示され、ODOインジケーターが付きます。上限を超えると、最大値で保持されます。

トリップの範囲は0～999.9kmで表示され、TRIPインジケーターが付きます。上限を超えると、ゼロにリセットされます。

メインメーターパネル画面で、右コンビネーションスイッチの「MODE」ボタンを短く押すと、トリップ走行距離とオドメーター走行距離の表示を切り替えられます。トリップ走行距離をリセットするには、「TRIP」画面で「MODE」ボタンを長押ししてください。

⚠ WARNING

車両が走行中にもかかわらず走行距離表示が変化しない場合は、メーターパネルが故障しています。当社指定のサービスショップにて点検・修理を依頼してください。

燃料アイコン③

燃料レベルが約2.6Lまで低下すると、ディスプレイ上部の燃料アイコン③が点灯し、速やかに燃料を補給する必要があることを示します。
燃料ゲージが1～4本のバーを順に点滅させる場合は、故障を示しています。

⚠ WARNING

最寄りのガソリンスタンドで指定の燃料グレードを速やかに給油してください。燃料レベル表示が階段状に点滅する場合は、当社指定のサービスショップにて点検・修理を依頼してください。

燃料レベルリアルタイム表示⑩

燃料ゲージは、燃料タンク内の残量を表示します。燃料ゲージは4つのセグメントがあり、満タンを示します。燃料レベルが約2.6Lまで低下すると、燃料レベルセグメントが赤くなり、まもなく燃料を補給すべきことを示します。

左ウインカーインジケータ④

ウインカースイッチを左に設定すると、左ウインカーインジケータが点滅します。

注意：

ウインカーランプが損傷または配線不良により作動しない場合、メーターパネルのウインカーインジケータは消灯したままか、より速く点滅します。

ハイビームインジケータ⑫

ハイビーム点灯時またはパッシングライトスイッチ使用時に、ハイビームインジケータが点灯します。インジケータが点灯しない場合は、配線とインジケータの状態を確認してください。

キー検出インジケータ⑤

車両始動後、リモートキーが2m以上離れるとインジケータが点灯します。

注意：

車両始動後にキー検出インジケータが点灯したままの場合は、リモートキーが近くにあるか確認してください。

光センサーポート①

光センサーポートは、メーターパネルが外部の光信号を検出する場所です。

⚠ WARNING

光センサーポートを塞がないでください。メーターパネルの自動背景輝度機能が正常に動作しなくなります。

時刻／日付表示⑧

このセクションには時刻または日付が表示されます。メニューから設定できます。

時計は24時間形式で表示されます。具体的な調整については、メーターパネルメニューの設定を参照してください。

オイル交換リマインダーインジケータ⑩

このインジケータは、以下の走行距離間隔で点灯します：

1,000km、4,000km、その後は4,000kmごと。

キーが「」位置にあるとき、右スイッチの「MODE」ボタンを長押ししながらノブを「」位置に回すと、メーターパネルの起動が完了し、オイル交換リマインダーが自動的にリセットされます。

Bluetoothインジケータ⑥

メーターパネルでBluetooth機能の有効・無効を切り替えます。

オン・オフの方法は、メーターパネルメニューの設定を参照してください。Bluetooth機能が無効の場合、インジケータは点灯しません。Bluetooth機能が有効で、スマートフォンがBluetoothでメーターパネルに接続されると、インジケータは常時点灯します。スマートフォンがBluetoothでメーターパネルに接続された状態で着信があると、メーターパネルは通話画面に切り替わり、電話アイコン、名前、電話[B] 番号が表示されます。電話に出るには、右コンビネーションスイッチの「MODE」ボタンを短く押します。電話を切るには、右コンビネーションスイッチの「MODE」ボタンを長押しします。

水温計表示⑳

エンジンシリンダーヘッド温度をリアルタイムで監視し、ライダーがエンジン温度の変化を確認できるようにメーターパネルに情報を表示します。通常走行時は、白い水温アイコンと青い水温計が表示されます。温度が正常値を超えると、水温アイコンと水温計が赤くなり、ライダーに警告します。温度が警告上限を超えると、赤い水温アイコンと水温計が点滅します。

⚠ WARNING

水温が高すぎて水温アイコンと水温計が赤くなった場合は、停車して点検してください。赤い水温アイコンと水温計が点滅している場合は、直ちにエンジンを停止してください。温度が下がった後、冷却水レベルを確認してください。当社指定の専門サービスショップにて点検・修理を依頼してください。

右ウインカーインジケータ⑬

ウインカースイッチを右に設定すると、右ウインカーインジケータが点滅します。

注意：

ウインカーランプが損傷または配線不良により作動しない場合、メーターパネルのウインカーインジケータは消灯したままか、より速く点滅します。

エンジンシステム故障警告インジケータ

（システムアラーム）⑪

電子燃料噴射システムに関連するセンサー、アクチュエーター、またはその他の部品に故障が発生した場合、インジケータが常時点灯します。いずれかのセンサーが故障した場合、ECUはデフォルト値でリブモード走行を継続します。直ちに車両を専門サービスショップに持ち込み、修理を依頼してください。

アクチュエーターが故障した場合、ECUは車両の正常な走行を制御できなくなります。直ちに専門サービスショップに連絡し、修理を依頼してください。

ABS警告灯②

ABS警告灯は、キーでオンにすると点灯し、速度が5Km/hを超えると消灯します。

ABSブレーキシステムに故障がある場合、ABS警告灯が点灯します。

⚠ WARNING

ABS警告灯が点灯した場合は、走行を続けず、速やかに当社指定の認定サービスショップにて点検・修理を依頼してください。さもないと安全事故を引き起こす恐れがあります。

TCSスイッチ⑭ & TCS警告灯⑮

TCSのオン／オフ切替：TCSは、メーターパネルのメインメニューの設定から有効・無効を切り替えることができます。詳しい手順については、メインメニューの「表示・設定」セクションを参照してください。

TCSをオフにすると、ディスプレイに「TCS OFF」と表示され、TCS警告灯が常時点灯します。TCSをオンにすると、ディスプレイに「TCS ON」と表示されます。車両が始動し、速度が5km/hを超えると、警告灯が消灯します。TCSが作動すると、TCSアイコンが点滅します。

システムが有効で車両が走行中にTCS警告灯が常時点灯する場合は、TCSの故障を示しています。この場合、速やかに認定サービスセンターにて車両の点検・修理を依頼してください。

メーターパネルメインメニューの表示・設定

メーターパネルメニューに入って設定するには、右コンビネーションスイッチの「MODE」ボタンを押します。



キーが「」位置にあるとき、メーターパネルのセルフチェック完了後、「MODE」ボタンを短く押して走行距離を「ODO」状態に切り替えます。「MODE」ボタンを長押しすると、メーターパネルメニューに入ります。

メインメニュー画面では、短く押して切替、長押しして選択し、設定画面またはサブメニューに入ります。

「MODE」ボタンの操作について、長押し： $t > 1$ 秒、ボタンを離したとき、または2秒以上保持したときに作動します。短押し： $60\text{ms} < t \leq 1$ 秒。以下のメーターパネル設定も同様です。

注意：

メーターパネルメニューは車両が停止しているときのみアクセスできます。車両走行中はメーターパネルメニューに入って設定を行うことはできません。

日付の設定



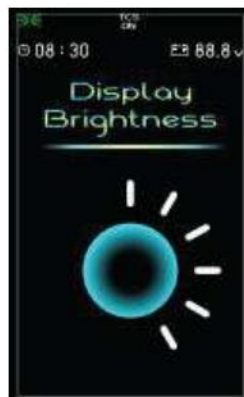
1. メインメニューで短く押して切り替え、「日付／時刻」を選択し、長押しして第2階層メニューに入ります。
2. 短く押して切り替え、「日付」を選択し、長押しして日付設定画面に入ります。
3. 日付設定画面で、短く押して数値を調整し、長押しして確定してから次の数値に移動します。最後に「画面に表示」に移動し、長押しして設定を確定し、前のメニューに戻ります。

時刻及びタイムゾーンの設定



1. 「日付／時刻」メニューで短く押して切り替え、「時刻」を選択し、長押しして第3階層メニューに入ります。
2. 第3階層メニューで短く押して切り替え、「時刻」を選択し、長押しして時刻設定画面に入ります。
3. 時刻設定画面で、短く押して数値を調整し、長押しして確定してから次の数値に移動します。「画面に表示」に切り替え、長押しして確定し、前のメニューに戻ります。
4. 「タイムゾーン」を選択し、長押しして地域設定に入ります。短く押してタイムゾーンの選択を順に切り替え、長押しして確定し、前のメニューに戻ります。

ディスプレイの明度調整



メインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「ディスプレイ輝度」を選択し、長押しして第2階層メニューに入ります。第2階層メニューで短く押してボタンを「カスタム」に切り替え、長押しして設定画面に入ります。短く押して輝度を低から高へ順に切り替え、長押しして確定し、前のメニューに戻ります。

第2階層メニューで短く押してボタンを「自動」に切り替え、長押ししてこのオプションを選択すると、輝度が自動調整されます。

単位設定

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「単位」を選択し、長押しして単位設定画面に入ります。短く押して「メートル法」と「ヤード・ポンド法」を順に切り替え、長押しして確定し、前のメニューに戻ります。

Bluetooth設定

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「モバイル接続」を選択し、「MODE」ボタンを長押ししてBluetooth設定画面に入ります。短く押してBluetooth機能メニューを順に切り替えます。短く押して「Bluetooth接続」に切り替え、長押しして選択します。短く押してBluetooth「ON」と「OFF」を切り替え、長押しして設定を確定します。

テーマ設定

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「テーマ」を選択し、長押ししてテーマ設定画面に入ります。短く押して5つの利用可能なテーマを順に切り替え、長押しして確定し、メインメニューに戻ります。

言語設定

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「言語」を選択し、長押しして言語設定画面に入ります。短く押して利用可能な言語を順に切り替え、長押しして言語を選択し、メインメニューに戻ります。

故障表示

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「故障」を選択し、長押しして第2階層メニューに入ります。短く押して「現在」または「履歴」を順に切り替え、長押しして故障を表示します。故障表示画面で長押しして確定し、前のメニューに戻ります。

TCSスイッチ

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「TCSシステム」を選択し、長押ししてTCSスイッチ設定画面に入ります。短く押して「オン/オフ」を選択し、長押しして選択します。短く押して「オン」と「オフ」を切り替え、長押しして確定し、設定を終了します。

バージョン情報表示

メーターパネルメインメニューで短く押してボタンを順に切り替え、「概要」を選択し、長押ししてシステム情報画面に入ります。[B]

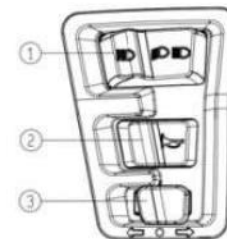
注意：

メーターパネルのバージョン情報は選択・変更できません。

終了

メーターパネルメニューには「戻る」コマンドがあります。短く押して選択し、長押しすると自動的に前のメニューまたはメイン画面に戻ります。

左側集中スイッチ



デイマースイッチボタン①

1. パッシングライト：スイッチを左の「 」位置に瞬間的に押すと、ハイビームが点灯します。スイッチを離すと「 」位置に戻ります。追い越し時にスイッチを繰り返し左に押すことで、意思表示となり安全性が向上します。

2. ハイビーム：スイッチを右の「 」位置に押し続けます。これによりヘッドライトのハイビームが点灯し、同時にメーターパネルのハイビームインジケータランプが点灯します。

3. ロービーム：スイッチが中央の「 」位置にあると、ロービームが点灯します。

⚠ DANGER

パッシングライトスイッチを故意に長時間押してハイビームとロービームを点灯させないでください。車両のヘッドライトおよびその他の電装部品が損傷する恐れがあります。

⚠ WARNING

ヘッドライトにテープを貼ったり、ヘッドライトの前に物を置いたりすると、ヘッドライトの放熱が妨げられ、ヘッドライトが損傷する恐れがあります。そのため、ヘッドライトにテープを貼ったり、ヘッドライトの光を遮る物を置いたりしないでください。

ホーンボタンスイッチ②

ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

ウinkerスイッチボタン③

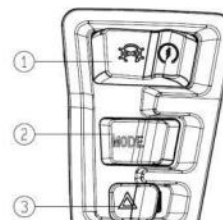
スイッチを左側「」に設定すると、左ウinkerが点滅し、メーターパネルの左ウinker表示灯が連動して点灯します。スイッチを右側「」に設定すると、右ウinkerが点滅し、メーターパネルの右ウinker表示灯が連動して点灯します。

ウinkerを消灯するには、スイッチを内側に押すか、中央位置に戻してください。

DANGER

走行前に車線変更や右左折の際にウinkerを点灯する習慣を身につけることが不可欠です。車線変更や右左折が完了したら、必ずウinkerを消灯してください。

右側集中スイッチ



始動/停止スイッチボタン①

スイッチを左側の「」位置に設定すると、始動回路が遮断され、エンジンは始動しません。緊急停止スイッチとしても機能します。スイッチを中央位置に保持すると、イグニッション回路が有効になり、エンジンを始動できます。サイドスタンドが収納されていることを確認し、ブレーキハンドルを握った状態で右側の「」スイッチを押して車両を始動してください。スイッチを離すと自動的に元の位置に戻ります。

DANGER

電動スターターを連続使用する場合、1回の始動時間は5秒を超えてはなりません。2回の始動の間隔は約10秒空けてください。これは大量の放電により回路とスターターモーターが異常に発熱する可能性があるためです。数回試みてもエンジンが始動しない場合は、指定の正規サービスショップで点検を受けてください。

車両を洗車する際は、電装部品、特にハンドルバースイッチに直接水をかけないでください。冷却液、燃料、またはオイルが不足している状態では車両を始動しないでください。

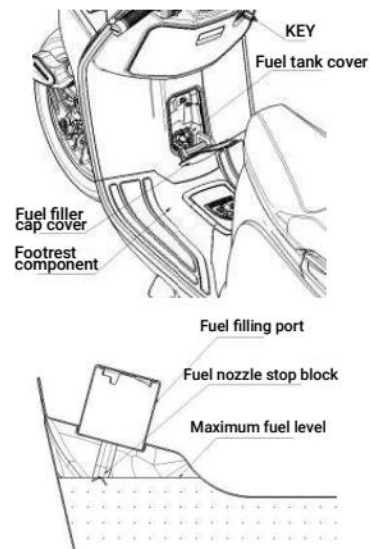
メーターモードボタン **MODE** ②

メーターモードスイッチの組み合わせにより、メーターパネルの操作、トリップ走行距離表示のリセット、電話の応答・終了が可能です。メーターTRIP表示、メーターメインメニューの表示と設定、Bluetoothインジケーターの詳細な操作方法を参照してください。

ハザードランプスイッチボタン ③

 スwitchを押すと、すべてのウインカーが点滅します。

燃料タンク



燃料タンクは車両のフットレスト下部に位置しています。給油前に、ステアリングロックノブを回して燃料注入口カバーを解錠し、燃料タンクカバーを持ち上げます。キャップを反時計回りに90°回転させ、燃料タンクカバーを上方に取り外します。給油時は最大燃料レベルに注意してください。キャップを閉じるには、燃料タンクカバーを燃料タンクに挿入し、カバーを時計回りに90°回転させて固定します。その後、燃料タンクカバーを閉じ、燃料注入口カバーを閉めてください。

WARNING

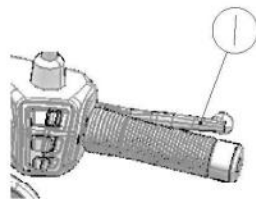
- 燃料を入れすぎて、こぼれた燃料が車両内部に流れないようにしてください。給油時の燃料レベルは図に示す最大燃料レベルを超えてはなりません。超過すると、熱による膨張で燃料があふれ、車両部品が損傷します。
- 給油前にエンジンを停止し、イグニッションスイッチを「」の位置にしてください。燃料は火気から離してください。

DANGER

給油時は確実な予防措置を講じてください。さもないと火災の原因となったり、燃料蒸気を吸引する恐れがあります。給油は換気の良い場所で行ってください。燃料漏れを防ぐため、エンジンが停止していることを確認してください。給油中は喫煙せず、周囲に熱源や着火源がないことを確認してください。燃料蒸気の吸引を避けてください。給油時は子供やペットを近づけないでください。

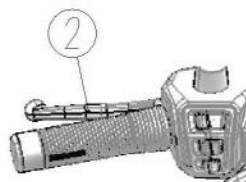
ブレーキ フロントブレーキ

このブレーキレバー①を握ると、前輪にブレーキがかかり、ブレーキランプが点灯します。フロントブレーキはディスク油圧式ブレーキのため、制動時に過度な握力を加える必要はありません。



リアブレーキ

このブレーキレバーを握ると、後輪にブレーキがかかり、ブレーキランプが点灯します。リアブレーキはディスク油圧式ブレーキのため、制動時に過度な握力を加える必要はありません。

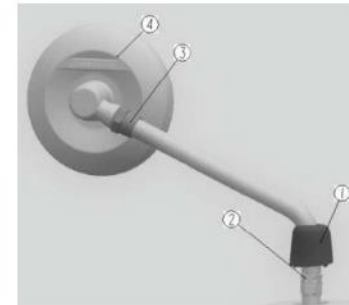


バックミラー

バックミラーの調整

①を動かして、また②③④を調整し、バックミラーを希望の位置に合わせてください。

②③を締め付け、①を取り付けてください。



ヘッドライト

この車両にはハイビーム/ロービーム兼用のフロントヘッドライトが装備されています。フロントヘッドライトのパラメータは、製造時に関連する国家規格に基づいて調整されており、追加の調整は不要です。

ヘッドライトの調整

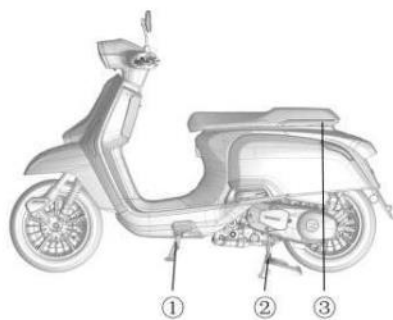
ヘッドライト調整ネジ①を緩め、ヘッドライトを希望の角度に調整してから、調整ネジ①を締め付けてください。正しい照射角度がわからない場合は、専門の技術者、できれば地元のディーラーにご相談ください。



駐車

車両にはサイドスタンド①、メインスタンド②、リアグラブバー③が装備されています。

足を使ってサイドスタンドまたはメインスタンドを下限位置まで回し、確認してから車両を離れてください。



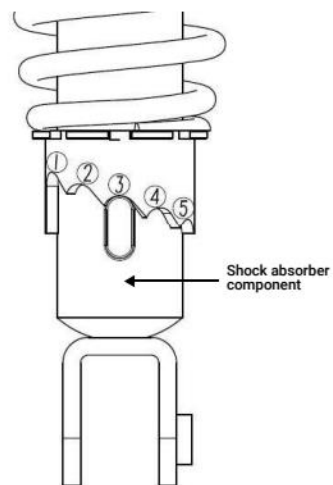
⚠ WARNING

走行前に、サイドスタンドまたはメインスタンドが上限位置まで回転しているか、緩みやガタつきがないか、サイドスタンドまたはメインスタンドが他の位置で止まっていないかを確認してください。

⚠ DANGER

固く平坦な舗装面に駐車することで、転倒を防止できます。緩やかな傾斜面にしか駐車できない場合は、前方を上り坂方向に向けて駐車してください。

フロント及びリアショックアブソーバー



フロントおよびリアショックアブソーバーの底部にある調整ノブを回すことにより、スプリングプリロードを5段階に設定できます。

工場設定がお客様のニーズに合わない場合は、三日月レンチなどの専用工具を使用して調整ノブを回し、新しい乗り心地を体験できます。専用工具がない場合は、片手で調整ノブを軽く持ち上げながら回すことでもプリロードを調整できます。目盛りは①から⑤まであり、ショックアブソーバーの支持力（スプリングプリロード）が段階的に増加します。数字が小さいほど快適性が高くなります。個人の使用ニーズに合わせて調整してください。

燃料、エンジンオイル、クーラント及びギアオイルのご使用上の注意

燃料	(27)
エンジンオイル	(27)
クーラント	(27)
ギアオイル	(27)

燃料、エンジンオイル、冷却液、ギアオイルの使用上の注意

燃料

無鉛ガソリンのみを使用してください。

推奨燃料：95 RONガソリンまたは91/95 RON

エタノール混合ガソリン（E10）

経験上ノッキング音がすると思われる場合は、より高いオクタン価のガソリンまたは別の販売元のガソリンを使用してください。ブランドによって品質に差があるためです。

エンジンオイル

高品質の4ストロークエンジンオイルはエンジンの寿命を延ばします。SAE 10W-40グレード以上の「バイク用4ストロークエンジンオイル」を使用してください。

▲ WARNING

無鉛でないガソリン、低品質の燃料やオイルはEFIシステムの部品を損傷し、スパークプラグやマフラー内の触媒およびエンジンの寿命を縮めます。また、不純物を含む燃料は燃料ラインを詰まらせ、エンジンの異常動作を引き起こすため、絶対に使用しないでください。

注意：

使用済みエンジンオイルは環境を汚染しないよう適切に処分してください。使用済みオイルは密閉容器に入れて、お近くのリサイクルセンターに持ち込むことをお勧めします。ゴミ箱、地面、下水道などに捨てないでください。

冷却液

アルミラジエーターに適した冷却液を使用してください。冷却液の種類はLEC-II-40（有機系）で、エチレングリコールベースの軽負荷バイク用エンジン冷却液です。

冷却液容量

冷却液容量：

ラジエーター：450 ml

リザーバー：100 ml

▲ DANGER

・エンジン冷却液は、飲み込んだり吸引した場合、健康被害または死亡の原因となる可能性があります。冷却液は動物にも有毒です。不凍液や冷却液を飲まないでください。飲み込んだ場合は、無理に嘔吐せず、直ちに病院に連絡してください。冷却液のミストや蒸気を吸引しないでください。吸引した場合は、直ちに換気の良い新鮮な空気のある環境に移動してください。冷却液が目に入った場合は、清涼な水で洗い流し、医療処置を受けてください。車両の整備後は手を十分に洗ってください。冷却液から子供やペットを遠ざけてください。

・冷却液が車両の塗装面にこぼれると損傷を誘発する可能性があります。冷却液を補充する際はこぼさないよう注意してください。こぼれた場合は、直ちに拭き取ってください。

ギアオイル

ギアオイルの種類：85W-90 ギアオイル

ギアオイル容量

ギアオイル容量： 0.15 L（オーバーホール時）

0.12 L（オイル交換時）

リザーバー：100 ml

慣らし運転と走行前点検

推奨最大エンジン回転数.....	(11)
新品タイヤの慣らしについて.....	(11)
走行前にエンジンオイルを循環させてください.....	(29)
初回点検とルーティンメンテナンス.....	(29)
走行前点検	(30)

慣らし運転と走行前点検

新しい車両の適切な慣らし運転は、寿命を延ばし、新しい車両の性能を最大限に発揮させます。以下が適切な慣らし運転の方法です。

推奨最大エンジン回転数

新しい車両のエンジン慣らし走行距離は1,000kmです。慣らし期間中、エンジン回転数は以下の推奨値に従ってください。

走行距離	エンジン回転数
500kmまで	5,000rpm以下
続く1000kmまで	6,000rpm以下

新品タイヤの慣らし

エンジンの慣らしと同様に、新品タイヤも最適な性能を確保するために適切な慣らしが必要です。新品タイヤでの最初の160kmの間、徐々にコーナーでの傾斜角度を増やし、タイヤの接地面を慣らし、最適な性能を引き出してください。新品タイヤでの最初の160kmは、急加速、急旋回、緊急ブレーキを避けてください。

DANGER

タイヤが十分に慣らされていない場合、スリップして制御不能になる可能性があります。新品タイヤに交換した後は特に注意して走行してください。本セクションに従ってタイヤを適切に慣らし、新品タイヤでの最初の160kmは急加速、急旋回、緊急ブレーキを避けてください。

走行前にエンジンオイルを循環させてください

エンジンが高温でも低温でも、始動前にエンジンに十分なアイドリング時間を与え、エンジンオイルが潤滑を必要とするすべての部分に行き渡るようにしてください。

初回定期オーバーホール

最初の1,000kmでのオーバーホールは最も重要な作業です。この期間中にすべてのエンジン部品の慣らしが完了します。そのため、すべての部品を再調整し、すべての締結具を増し締めし、部品の摩耗くずで汚れたオイルをこのオーバーホール過程で交換する必要があります。最初の1,000kmでの慎重なオーバーホールにより、車両が最高の性能を発揮し、寿命を延ばすことができます。

注意：

1,000km時のオーバーホールは、本書の「点検と整備」のセクションに従って実施してください。本セクションに記載されている危険および警告には特にご注意ください。

乗車前点検

DANGER

●走行前に車両の点検が十分に行われず、適切な整備がされていない場合、事故や車両の損傷の可能性が高まります。使用するたびに車両を点検し、安全に動作することを確認してください。本書の「点検と整備」のセクションを参照してください。

●不適切なタイヤが装着されている場合、車両の操作が不正確な場合、またはタイヤ空気圧が正しくない場合、車両の制御が困難になります。本書に指定されたサイズと仕様のタイヤを必ず使用してください。適切なタイヤ空気圧を維持するために、常に本書の「点検と整備」のセクションに従ってください。

走行前に以下の項目を注意深く確認してください。これらの点検の重要性を決して軽視しないでください。すべての点検と必要な修理は走行前に完了してください。

DANGER

●エンジンが動作中に車両を点検するのは危険です。手や衣服が車両の可動部分に巻き込まれると、重傷を負う可能性があります。エンジン停止スイッチとスロットルの確認にはエンジンを動作させ、その他の点検を行う際にはエンジンを停止してください。

項目	確認事項
ステアリング	1. ステアリングの柔軟性
	2. 干渉のない動作
	3. ずれや緩みがないこと
スロットル	1. スロットルの遊びが正しいこと
	2. スムースな動作と応答性
ブレーキスイッチ	1. 前後ブレーキレバーが正しく作動する
	2. リザーバー内のブレーキフルード量が適正
	3. ブレーキの引きずりがないこと
	4. ブレーキフルードの漏れがないこと
	5. ブレーキパッドやローターが摩耗限界値以上であること
サスペンション	1. スムースで柔軟に動作すること
燃料	1. 予定走行距離に十分な燃料であること
タイヤ	1. タイヤエア圧が正常であること
	2. トレッド深さが適正であること
	3. ひび割れや切り傷がないこと
エンジン	1. 正しいオイルレベルにあること
クーラント	1. 正しいクーラントレベルにあること
	2. クーラントの漏れがないこと
灯火類	1. すべての灯火類が正常に動作すること
メーター	1. メーター内の灯火及び警告灯が正しく動作すること
ホーン	1. 正常に動作すること
ブレーキスイッチ	1. 正常に動作すること
キルスイッチ	1. 正常に動作すること

ライディング時に気を付けていただきたいこと

エンジン始動.....	(32)
ライディング	(33-34)
下り坂での運転.....	(34)
ブレーキと停車.....	(24-35)
ABS	(35)

走り出すに当たって重要なこと

▲ DANGER

●タイヤが十分に慣らされていない場合、スリップして制御不能になる可能性があります。新品タイヤに交換した後は特に注意して走行してください。本セクションに従ってタイヤを適切に慣らし、新品タイヤでの最初の160kmは急加速、急旋回、緊急ブレーキを避けてください。

●この車種に初めて乗車する場合は、車両の操作とコントロールに慣れるまで、公道以外の場所で練習することをお勧めします。

●片手での走行は最も危険な行為です。常に両手でハンドルバーをしっかりと握り、両足をフットペグに乗せて走行してください。いかなる状況でもハンドルバーから手を離して走行しないでください。旋回する前に安全な範囲まで減速してください。

●路面が濡れて滑りやすい場合、タイヤの摩擦力が低下し、制動力とコーナリング性能が自然に低下するため、事前に減速する必要があります。

●横風はトンネルの出口、谷間、大型車両が後方から追い越す際に最も発生しやすくなります。注意を払い、冷静に対処し、減速してください。

●交通規則を遵守し、速度制限に注意してください。

エンジン始動

車両のロック解除後、ステアリングロックノブを時計回りに「」（オン）位置まで回してください。

注意：

車両を始動するには、サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキハンドルをしっかりと握ってください。そうしないと車両は始動しません。

注意：

転倒センサーは、車両が転倒した際に電源を遮断し燃料供給を停止してエンジンを停止させます。車両を再始動するには、イグニッションスイッチをオフにし、1分間待ってからイグニッションスイッチを再度オンにしてエンジンを始動してください。

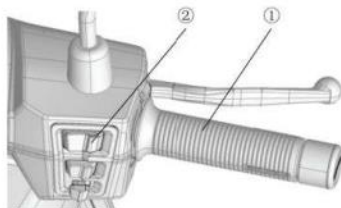
エンジンが冷えている場合

- ・サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキレバーをしっかりと握ってください。
- ・スロットルコントロールハンドルをアイドル位置にしてください。
- ・電動スタートボタンを押して車両を始動してください。
- ・エンジン始動後、エンジンが十分に暖まるまでアイドルリングを続けてください。

注意：

気温が低いほど、エンジンの暖機に時間がかかります。エンジンを十分に暖機してから走行すると、エンジンの摩耗軽減に効果的です。

冷間時で始動困難な場合



- サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキレバーをしっかりと握ってください。
- 右手でスロットルを握りながら、同時にセルフスターターボタンを押して車両を始動してください。
- エンジン始動後、エンジンが十分に暖まるまでアイドリングを続けてください。

エンジンが高温の場合

- サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキレバーをしっかりと握ってください。
- スロットルコントロールグリップをアイドル位置にしてください（スロットルコントロールグリップを離す）。
- 電動スターターボタンを押してください。

エンジンが高温の場合

- サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキレバーをしっかりと握ってください。
- 右手でスロットルを握りながら、同時にセルフスターターボタンを押して車両を始動してください。

⚠ DANGER

▪ タイヤの慣らしが十分ではない場合、スリップして制御不能になる可能性があります。新品タイヤに交換した後は特に注意して走行してください。本セクションに従ってタイヤを適切に慣らし、新品タイヤでの最初の160kmは急加速、急旋回、緊急ブレーキを避けてください。

▪ 換気の悪い場所や密閉された部屋でエンジンを始動しないでください。エンジンの排気ガスは有毒です。エンジンを無人で動作させたままにしないでください。燃料またはオイルが不足している状態では車両を始動しないでください。

⚠ WARNING

▪ 車両に乗車していない時は、エンジン回転数を上げすぎず、アイドリング時間を長くすぎないでください。長時間のアイドリングはエンジンの過熱を招きやすく、内部部品の損傷や、排気管およびマフラーの変色につながる可能性があります。

ライディング（走り出しましょう）

サイドスタンドを収納し、フロント（リア）ブレーキレバーをしっかりと握ってエンジンを始動してください。ブレーキレバーをゆっくり離し、スロットルコントロールグリップを加速方向に徐々に回して車両の移動を開始してください。スロットルを徐々に開いて加速します。

⚠ DANGER

●タイヤの慣らしが不十分な場合、スリップして制御不能になる可能性があります。新品タイヤに交換した後は特に注意して走行してください。本セクションに従ってタイヤを適切に慣らし、新品タイヤでの最初の160kmは急加速、急旋回、緊急ブレーキを避けてください。

●車両を始動する前に、サイドスタンドが出っぱなし、もしくは中途半端な位置ではなく、きちんと情報に格納されていることを確認してください。

●走行前にヘルメット、保護メガネ、目立つ服装を着用してください。

●飲酒後や薬物服用後に車両を運転しないでください。

●滑りやすい路面や視界が悪い場合は減速してください。

●速度超過は車両の制御を失いやすく、事故につながります。走行速度は国の規制に従ってください。地形、視界、走行環境の条件に応じて適切な速度を選択してください。常に技量の範囲内で走行し、速度制限を超えないでください。

●片手での走行は最も危険な行為です。常に両手でハンドルバーをしっかり握り、両足をフットペグ（フロアボード）に乗せて走行してください。いかなる状況でもハンドルバーから手を離して走行しないでください。

●横風はトンネルの出口、谷間、大型車両が後方から追い越す際に最も発生しやすくなります。注意を払い、冷静に対処し、減速してください。

Downhill Riding

⚠ WARNING

- 下り坂で長時間リアブレーキを多用すると、制動効果が低下する場合があります。
- 長時間のブレーキ使用は、過熱によりブレーキの効きが悪くなったり、損傷する可能性があります。
- 正しい方法は、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用することです。

制動と駐車

- スロットルコントロールグリップを離してスロットルを完全に戻してください。
- フロントおよびリアブレーキレバーで制動してください。
- サイドスタンドを使用して緩やかな傾斜に駐車する場合は、サイドスタンドの回転による転倒を防ぐため、上り坂方向に向けて駐車してください。
- イグニッションスイッチを「」（OFF）位置にしてエンジンを停止してください。
- ステアリングロックをかけて安全を確保してください。
- キーを抜いてください。

⚠ WARNING

- リアブレーキのみでの制動はブレーキシステムの摩耗を加速させ、制動距離が長くなります。
- 車速が高すぎると制動距離がそれに応じて長くなります。前方の車両や物体との距離が車両を制動するのに十分であることを確認してください。さもないと追突事故を引き起こす可能性があります。

⚠ WARNING

●フロントまたはリアブレーキの片方のみを使用するのは危険であり、スキッドや車両の制御不能を引き起こす可能性があります。滑りやすい路面やカーブではブレーキシステムを慎重かつ穏やかに使用してください。凹凸のある路面や滑りやすい路面での急ブレーキは、車両を制御不能とする可能性があります。

●旋回中の急ブレーキは車両を制御不能にする可能性があります。旋回前にブレーキをかけて車速を落としてください。

●マフラーはエンジン動作中または停止直後は高温になるため、やけど防止のため触れないでください。

ABS

◦ **ABSはどのように作動するか？**

路面に伝達できる最大制動力は、路面の摩擦係数に基づきます。砂利舗装、雪で覆われた舗装、濡れた路面の摩擦係数は、乾燥した清潔なアスファルト舗装よりもはるかに低くなります。路面の摩擦係数が低いほど、制動距離は長くなります。乗車者が伝達可能な最大制動力を超えるブレーキ圧力をかけると、車輪がロックし、安定性を失い、転倒の原因となります。これが発生する前にABSが介入し、ブレーキ圧力を最大伝達可能制動力に合わせ、車輪の回転を維持し、走行安定性が路面状況に影響されないようにします。

◦ **後輪の浮き上がり**

タイヤと路面の密着性が高い場合、制動力が増加し、前輪のロックは大幅に遅れるか、発生しない場合が

あります。そうすると、ABSは動作が遅延するか、まったく介入しない可能性があります。この場合、後輪が浮き上がり、車両が転倒する可能性があります。

⚠ WARNING

強いブレーキにより後輪が地面から浮き上がります

・ **転倒：**

ABSは強いブレーキ時に後輪の浮き上がりを常に防止できるわけではないことにご注意ください。

・ **特殊なケース**

車輪がロックするかどうかを識別するために、前輪と後輪の速度も比較されます。信頼できない値が長時間検出された場合、安全上の理由からABSはオフになり、ABS故障が表示されます。故障情報の出力の前提条件は、自己診断が完了していることです。ABS自体が識別した問題に加えて、異常な走行状態も故障情報につながる場合があります。

・ **異常走行状態**

- フロントブレーキを締めた状態で、後輪がその場で回転する場合（いわゆる「バーンアウト」）。
- 後輪が滑りやすいレーンで長時間スライドする場合。
- 異常走行状態により故障情報が生成された場合、イグニッションスイッチをオフにしてから再度オンにすることで機能を再有効化できます。

注意：

ABSを最良の整備状態に維持するため、規定の整備および点検周期に従ってください。

d
n

点検と整備

整備スケジュール.....	(37-38)
工具キット	(39)
燃料タンク取付/取外し手順.....	(39-40)
バッテリー	(40-42)
エアフィルター	(42-44)
スパークプラグ.....	(44-45)
エンジンオイルとその交換.....	(45-47)
ギアオイルの交換.....	(47)
スロットルバルブボディ.....	(47)
スロットルの遊び量.....	(47)
アイドリングスピード.....	(48)
エバポ制御装置	(48)
冷却液	(48-49)
燃料ライン	(49)
ブレーキシステム.....	(49-52)
タイヤ	(52-54)
ヒューズ	(54-55)

点検と整備

整備スケジュール

以下の表は、各定期整備で実施すべき点検項目を示しており、点検間隔は使用月数または走行キロ数のいずれか早い方を基準とします。各点検は以下の表に示された項目に従って実施してください。

車両が過酷な条件下で使用された場合、すなわちスロットル全開での連続走行や、砂嵐の中などの過酷な条件下での走行を強いられた場合は、車両の信頼性を維持するため、その後に特別な整備を実施してください。

具体的な整備内容については、サービスショップで詳しい相談を受けることができます。特にステアリングシステム、ショックアブソーバー、ホイールなどの重要部品については、専門技術と慎重な整備が必要です。安全のため、認定されたサービスショップへの整備の依頼をお勧めします。

▲ DANGER

- 新しい車両の最初の1,000km後の整備は必ず実施してください。これにより車両が常に確実に作動し、優れた性能を発揮できます。
- マフラーはエンジン動作中または停止直後は高温になるため、やけど防止のため触れないでください。
- 不適切な整備や整備後に残る問題は事故を引き起こす可能性があります。車両を良好な状態に維持するため、「*」が付いた項目は認定サービスショップで実施してください。本セクションの内容を参考に、機械整備の

経験がある方は「*」が付いていない項目をご自身で整備できます。これらの項目の対処法がわからない場合は、専門のサービスショップにお任せください。

- エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、無色無臭のため知覚しにくく危険です。一酸化炭素を吸引すると死亡または重傷を負う可能性があります。密閉された部屋や狭い空間、換気の悪い場所でエンジンを始動・運転しないでください。

▲ WARNING

- 定期整備が本書の指示に厳密に従って慎重に実施されているか真剣に確認してください。
- 最初の1,000km後の整備は、本セクションに記載された方法に従って実施してください。本セクションの「危険」および「警告」で特定された内容には特にご注意ください。
- 不適切な交換部品は摩耗を加速させ、車両の寿命を縮めます。車両の部品交換には、当社の純正部品のみを使用してください。

注意：

整備過程で発生する洗浄剤や廃油などの廃棄物は、環境汚染を防ぐため適切に処分してください。

注意：

整備スケジュールは必要最低限の整備項目を規定しています。車両を過酷な条件下で頻繁に使用する場合は、整備スケジュールに規定されたもの以上の整備を実施してください。整備期間についてご不明な点は、認定サービスショップにご相談ください。

定期メンテナンススケジュール

項目	点検期間	距離 (km)	初回1000km	4000 km毎	8000 km毎	12,000 km毎	16,000 km毎
	期間 (月)		3ヵ月	12ヵ月毎	24ヵ月毎	36ヵ月毎	48ヵ月毎
ファスナー			J		J		
スパークプラグ					J		R
ドライブベルト/20,000 kmごとに交換						J	J
スロットルバルブコントローラー			J		A		
サイドスタンド、メインスタンドのゴムパッド					R		
CVTケース及びダストカバー				J	J	J	J
エアフィルターエレメント				J	R		
エンジンオイル及びギアオイル			R	R	R		
ウェイトローラー及びスライドピース					J	J	J
オイルストレーナー/フィルター					R		
クーラント/△2年ごとに交換			J	J			
タイヤの摩耗と空気圧			J	J			
バルブクリアランス							A
サスペンション					J		
ブレーキパッド/シュー			J	J			
ブレーキフルード/△2年ごとに交換			J		J		
ステアリングシステム			A		A		

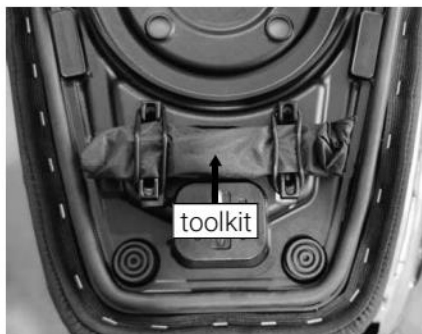
J：点検、清掃、調整もしくは必要に応じて交換

R：交換

A：点検及び調整

Iambrella

ツールキット

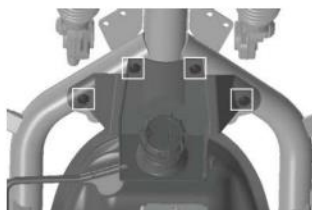


ツールキットはシート下に固定されています。シートを持ち上げるだけで、ツールキットにアクセスして取り外すことができます。

燃料タンク取り外しの簡易手順

燃料タンクの取り外し手順

- ①メンテナンスマニュアルに従い、カバー部品および電装部品を順番に取り外します。
- ②工具を使用して、下図に示す4本の拡張スクリューを取り外します。



- ③ 燃料タンクカバーを取り外します。



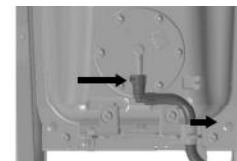
- ④ ワイヤークランプを緩め、燃料スプラッシュガードからT字ジョイントを取り外し、燃料タンクスプラッシュガードを取り外します。



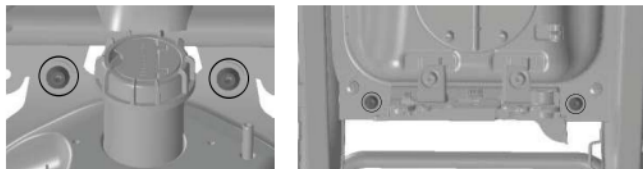
- ⑤ 燃料タンクカバーを再度締め付けて、紛失または燃料漏れを防止します。



- ⑥ クイックコネクトカップリングのリリースクリップをしっかり押して、燃料ポンプから高圧燃料ラインを切り離します。次に、燃料タンク断熱プレートのクランプから燃料ラインを取り外します。



⑦ 工具を使用して、燃料タンクの前後から4本のボルトを取り外します。



⑧ この時点で、燃料タンクサブアセンブリーをフレームから取り外すことができます。



⑨ 工具を使用してボルトおよび拡張スクリューを取り外し、燃料タンク断熱プレート、燃料ポンプ、および燃料タンク断熱ゴムを取り外します。



⑩ 組み立て順序は分解の逆順です。

注意：
燃料ラインを取り外す際に燃料を漏らさないでください。

Iambrella

燃料タンクは分解時に固定されていないため、2人で協力して分解作業を行ってください。

燃料ラインの折れを防ぐため、燃料タンクを強く引っ張ったり、燃料ラインを無理に曲げたりしないでください。

燃料タンクの取り外しまたは設置時に、燃料ラインの先端を傷つけないよう注意してください。

バッテリー

バッテリーは完全メンテナンスフリーの密閉型であり、電解液のレベルおよび比重の定期的な点検は不要です。ただし、充電性能は定期的に点検してください。標準充電：0.1Cで8～10時間、急速充電：0.3Cで2～3時間。最大充電電流を超えないでください。

⚠ DANGER

●バッテリー端子および関連部品には鉛または鉛化合物が含まれており、血液中に入ると健康を害する恐れがあります。鉛を含む部品を扱った後は手を洗ってください。

バッテリー内の硫酸は目を傷つけ、皮膚を火傷させる恐れがあります。保護メガネと手袋を着用してください。硫酸で負傷した場合は、大量の水で洗い流し、直ちに医療処置を受けてください。子供をバッテリーに近づけないでください。

注意：

廃バッテリーおよび電解液は環境汚染を防ぐため、適切に処分してください。廃バッテリーおよび電解液は地域のリサイクルセンターに送ることをお勧めします。ゴミ箱、地面、または下水に捨てないでください。

注意：

バッテリーを定期的に点検し、電圧が11.5V以下の場合は充電してください。

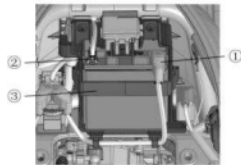
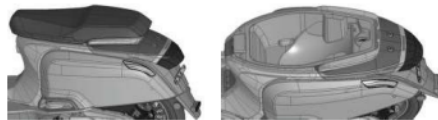
注意：

過充電はバッテリーの寿命を短くします。過充電しないでください。

バッテリーの取り外し

以下の手順に従ってバッテリーを取り外してください：

- サイドスタンドまたはメインスタンドでバイクを駐車します。
- シートを開き、収納コンパートメントを取り外します。



- マイナス端子 (-) を取り外します。
- 保護キャップを外し、プラス端子 (+) を取り外します。
- バッテリー固定ストラップを取り外します。
- バッテリーを取り外します。

⚠ DANGER

- バッテリーには硫酸や鉛などの有害物質が含まれており、人体に害を及ぼし、環境を汚染します。そのため、使用済みバッテリーは地域の法律および規制に従って処分またはリサイクルしなければならず、一般家庭ごみとして廃棄することはできません。取り外し時にバッテリーを損傷しないでください。硫酸が漏れると人体に害を及ぼします。

⚠ WARNING

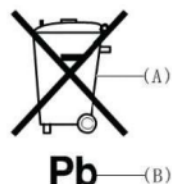
- バッテリーを接続する際は、まず赤い線をプラス端子に接続し、次に黒い線をマイナス端子に接続してください。逆接続すると電装部品が損傷します。

注意：

- バッテリー交換時は、同じ型番のMFバッテリーを選んでください。

注意：

- 長期間使用しない場合は、3ヶ月ごとにバッテリーを充電してください。



バッテリー上のシンボル (A) は、使用済みバッテリーを一般家庭廃棄物とは別に回収しなければならないことを示しています。使用済みバッテリーは適切に処分またはリサイクルしなければなりません。さもないと環境および人体の健康に悪影響を及ぼします。材料のリサイクルは天然資源を保護することができます。使用済みバッテリーの適切な処分およびリサイクルについては、地域の販売店にご相談ください。

エアフィルター

エアフィルターはエンジンの上部に位置しています。エアフィルターがほこりで詰まると、吸気抵抗が増加し、出力が低下し、燃料消費が増加します。ほこりの多い環境でバイクを使用する場合は、エアフィルターエレメントをより頻繁に清掃または交換してください。以下の手順に従ってエアフィルターを点検・清掃してください。

⚠ DANGER

- ほこりの多い環境でバイクを使用する場合は、エアフィルターエレメントをより頻繁に清掃または交換してください。
- エアフィルターを取り付けずにエンジンを作動させると、ほこりや異物がエンジン内に侵入し、エンジンを損傷させます。そのため、エアフィルターなしでエンジンを作動させないでください。

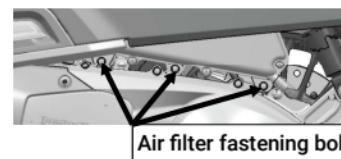
注意：

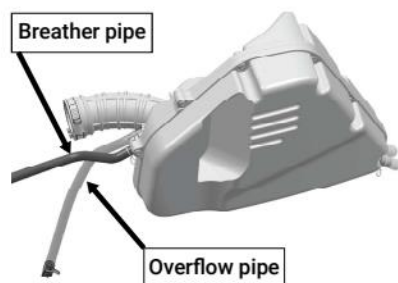
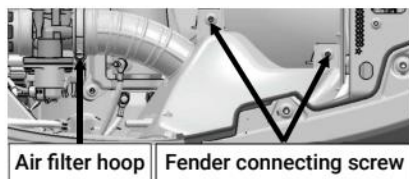
汚れた、湿った、泥だらけの環境で定期的な点検を行わずにバイクを使用すると、バイクが損傷します。このような状況下では、エアフィルターが詰まり、エンジンが損傷します。過酷な環境でバイクを走行した後は、必ずエアフィルターを点検し、必要に応じて清掃または交換してください。エアフィルターに水が入った場合は、直ちに清掃してください。

- キーでシートを開き、収納コンパートメントを取り外します。

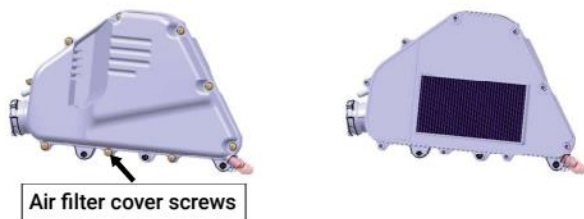


- 図に示すように、(3) エアフィルター取り付けボルトおよび (2) フェンダー接続スクリーンを取り外し、エアフィルタークランプを緩めてブリーザーパイプおよびオイルコレクターを切り離し、エアフィルターを取り出します。





エアフィルターカバーのすべてのスクリューを緩め、カバーを開き、エアフィルターエレメントを取り出して清掃します。



⚠ WARNING

- 破損したエアフィルターエレメントはほこりをエンジン内に侵入させ、エンジンを損傷させます。エアフィルター清掃時にフィルターエレメントが破損していないか確認してください。破損している場合は、新品に交換してください。

清掃済みのフィルターエレメントまたは新品を、分解と逆の手順で取り付けます。フィルターエレメントが正しく取り付けられ、密閉されていることを確認してください。

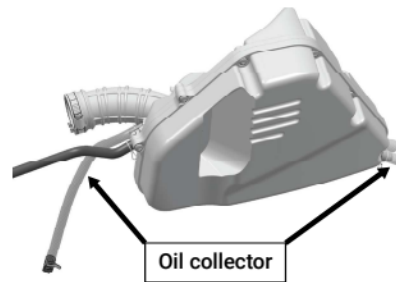
⚠ WARNING

- エアフィルターエレメントが正しく取り付けられていない場合、ほこりがフィルターエレメントを迂回してエンジン内に侵入し、エンジンを損傷させます。フィルターエレメントが正しい位置に取り付けられていることを確認してください。
- ほこりの多い条件下でバイクを使用する場合は、フィルターエレメントの点検および交換の間隔を短くしてください。フィルターエレメントの詰まり、破損、ほこり漏れ、エンジン出力の明らかな低下、燃料消費の増加、その他同様の状況が見られた場合は、定期メンテナンスを待たずに直ちにフィルターエレメントを交換してください。フィルターエレメントなしでエンジンを始動すると、エンジンの摩耗が増加します。フィルターエレメントは常にエンジンの寿命に影響するため、頻繁に点検してください。

注意：

バイクを洗車する際に、エアフィルターに水が入らないようにしてください。

Oil Collector



定期メンテナンス時に、オイルコレクターを取り外し、内部の廃油を排出します。

注意：

空気の湿度が高い場合は、点検の頻度を適切に増やしてください。

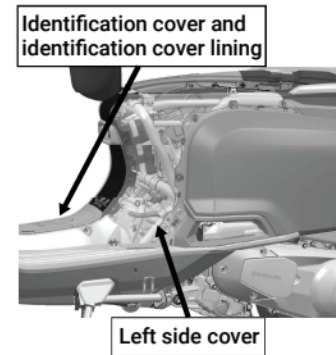
注意：

作業後は、必ずオイルコレクターを元の位置に再度取り付けてください。

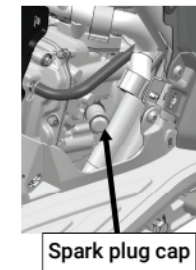
スパークプラグ

スパークプラグの取り外し

- メインスタンドで支えます。
- シートを開いて収納コンパートメントを取り出し、識別カバー、識別カバーライニング、および左サイドカバーインナーパネルを取り外します。



- エンジンの左側からスパークプラグキャップを取り外します。



- スパークプラグ専用工具を使用してスパークプラグを取り外します。

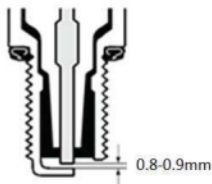
Spark Plug



⚠ WARNING

- スパークプラグの取り付け穴からほごりがエンジン内に侵入し、エンジンを損傷させる恐れがあります。スパークプラグを取り外した後は、スパークプラグの取り付け穴をカバーしてください。

Inspection of Spark Plugs



硬い鉄線またはスチール針でスパークプラグのカーボン堆積物を清掃し、シツネスゲージでスパークプラグの電極ギャップを確認し、電極ギャップを0.8～0.9mmに調整してください。

Replacement of Spark Plugs

⚠ WARNING

- 不適切なスパークプラグの熱価範囲はエンジンの作動に適合せず、エンジンを損傷させますが、これは保証の対象外です。以下に指定された型番のスパークプラグを使用してください。

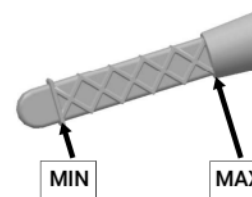
スパークプラグは定期メンテナンススケジュールに従って交換してください。スパークプラグの取り外しおよび取り付けは販売店で行ってください。

エンジンオイルとその交換

エンジンオイル

高品質オイルの選択とエンジンオイルの定期的な交換は、エンジンの耐久性にとって非常に重要です。オイルレベルの日常点検とオイルの定期的な交換は、メンテナンススケジュールで実施しなければならない2つの重要な作業です。

- オイルレベルの点検



以下の手順に従ってエンジンオイルレベルを点検してください。

- 平らで固い地面にバイクを駐車し、メインスタンドで支えます。
- オイルフィルター周辺を清掃します。
- ディップスティックを取り外します。
- 乾いた布でディップスティックの測定範囲を拭き取ります。
- ディップスティックをオイルフィルターに挿入しますが、ねじ込まないでください。
- ディップスティックを取り外し、オイルレベルを確認します。

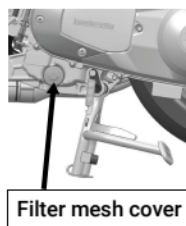
⚠ WARNING

▪ エンジンオイルが多すぎたり少なすぎたりした状態でエンジンを作動させると、エンジンが損傷します。冷間時にエンジンオイルを点検する場合は、車両を水平な場所に駐車し、5分以上アイドリングさせた後、エンジンを停止し3～5分間放置してください。オイルレベルゲージを使用して油面を確認してください。油面は「MIN」マークより上、「MAX」マークより下でなければなりません。

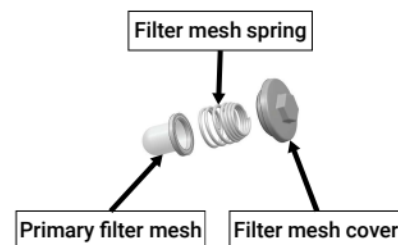
エンジンオイルの交換

メンテナンス期間ごとにエンジンオイルを交換してください。使用済みオイルをより完全に排出するため、エンジンが温かい状態でオイル交換を行ってください。手順は以下の通りです：

- 車両を左側に傾け、フィルターメッシュカバーを取り外してください。



- オイル受けを使用してクランクケースからエンジンオイルを回収し、プライマリーフィルターメッシュを清掃してください。



⚠ DANGER

- エンジンオイルとマフラー排気管はやけどの原因となります。使用済みオイルを排出する前に、ドレンボルトと排気管が冷えるまでお待ちください。
- 子供やペットが誤ってオイルを飲むと害を受ける可能性があります。注意：エンジンオイルへの長期的な曝露は皮膚がんを引き起こす可能性があります。エンジンオイルへの短期的な曝露は皮膚を刺激する可能性があります。子供やペットをエンジンオイルから遠ざけてください。エンジンオイル交換時は、長袖の衣服と保護手袋（洗濯用手袋など）を着用して刺激を軽減してください。皮膚がエンジンオイルに接触した場合は、石鹸と水で十分に洗浄してください。エンジンオイルで汚れた衣類やウエスを洗濯してください。使用済みエンジンオイルは正しくリサイクルおよび処分してください。

注意：

使用済みエンジンオイルは正しくリサイクルおよび処分してください。• オイルが完全に排出されたら、フィルターメッシュ、フィルターメッシュスプリング、フィルターメッシュカバーを再度取り付け、フィルターメッシュカバーを規定トルク（15N・m）で締め付けてください。

- オイルレベルゲージの穴から、SAE 10W-40以上のグレードの新しい「二輪車用4ストロークエンジンオイル」を注入してください。

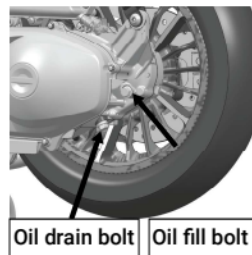
⚠ WARNING

- オイル注入後、油面が上限マークと下限マークの間にあるか再度確認してください。

- オイルディップスティックを取り付けてください。
- エンジンを5分以上アイドリング運転してください。エンジン運転中、再取り付けした部品からオイル漏れがないか確認してください。
- エンジンを停止し、3～5分間待ってください。上記の方法でエンジンオイルの油面を確認してください。エンジンオイルがレベルゲージの「MIN」マークより下の場合は、「MAX」マークまで新しいオイルを補充してください。オイル漏れがないか再確認してください。

ギアオイルの交換

定められたメンテナンス期間ごとに、ギアオイルを交換してください。



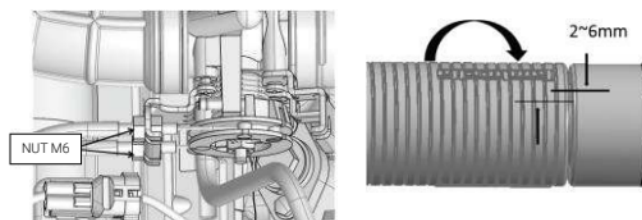
- メインスタンドで支え、オイルドレンプラグを外してギアオイルを排出してください。

- オイルドレンボルトを締め付けてください（トルク値25N・m）。オイル注入ボルト穴から0.12～0.15Lのギアオイルを注入した後、オイル注入ボルトを締め付けてください（トルク値25N・m）。

スロットルバルブボディ

スロットルボディのスロットルバルブストップスクリューは精密に設定されており、調整できません。アイドリング速度が安定しているか確認してください（エンジンが十分に暖まった後、エンジンのアイドリング速度は $1,650 \pm 100$ rpmであること）。安定していない場合は、当社指定サービスショップの専門サービス担当者に点検・対応を依頼してください。

スロットルの遊び



調整方法微調整：

シートを開け、収納ボックスを取り外してください。ロックナットM6を緩め、調整スクリューを回して目的の遊びを得てください。その後、ロックナットM6を締め付けてください。

⚠ DANGER

● スロットルケーブルの遊びを調整した後、スロットルグリップが自動的に戻ること、およびアイドリング速度が上昇しないことを確認してください。さらに、調整後にハンドルを回してもエンジンのアイドリング速度が上昇しないことを確認してください。

アイドリング速度

エンジンのアイドリング速度は、エンジンが温まった状態で確認してください。エンジンのアイドリング速度は $1,650 \pm 100$ rpmの範囲内でなければなりません。

注意：

エンジンのアイドリング速度が規定範囲内にない場合は、当社指定サービスショップに車両の点検を依頼してください。

蒸発エミッション制御システム

車両には、燃料の蒸発を大気中に放出することを防ぐ制御システムが装備されています。以下の項目を定期的に（5,000kmごとまたは18ヶ月ごとに）点検してください。

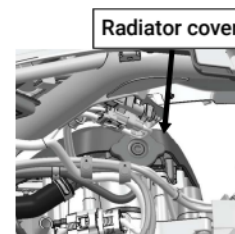
- 各燃料ラインの接続の確実性を確認してください。
- 各燃料ラインとキャニスターにひび割れや損傷がないか確認してください。損傷がある場合は交換してください。
- 各燃料ラインとキャニスターが詰まっていないことを確認してください。必要に応じて清掃または交換してください。

⚠ DANGER

● 蒸発エミッション制御システムの点検・修理が必要な場合は、資格のあるサービスショップに行くことを強くお勧めします。

冷却液

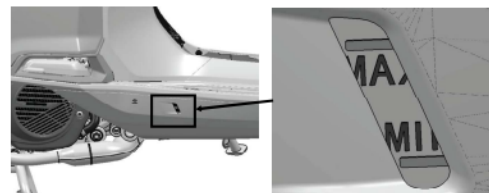
ラジエーター冷却液量



ラジエーター内の冷却液量は、常にラジエーターキャップ開口部以上でなければなりません。この量より少ない場合は、冷却液を補充してください。

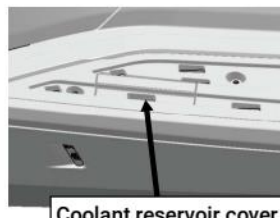
エンジンが冷えている状態で冷却液量を確認してください。

リザーバー冷却液量



冷却液リザーバー内の冷却液量は「MAX」マークと「MIN」マークの間に維持してください。冷却液量を定期的に確認してください。確認前に、車両を平らな場所に駐車し、メインスタンドで支えてください。冷却液量を確認し、「MIN」マークより下の場合は、以下の手順で適切な冷却液を補充してください。

- メインスタンドで車両を駐車してください。
- 左側フットレストカバーと冷却液リザーバーカバーを取り外してください。
- 冷却液リザーバーのキャップを外し、「MAX」マークまで適切な冷却液を補充してください。



注意：

エンジンが冷えている状態で冷却液量を確認してください。

注意：

冷却液リザーバーが空の場合は、直ちに冷却システムを点検し、冷却液を補充してください。

⚠ DANGER

- 冷却液は摂取または吸入すると有害であり、致命的な場合もあります。また動物にも有毒です。冷却液を飲まないでください。万一飲み込んだ場合は、嘔吐を誘発せず、直ちに中毒管理センターまたは医師に連絡してください。万一吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移動してください。冷却液が目に入った場合は、きれいな水で洗い流し、医師に相談してください。作業後は手を十分に洗浄してください。子供やペットを冷却液から遠ざけてください。

冷却液の交換

冷却液は2年ごとに交換してください。

注意：

冷却液を交換するには、ラジエーターに450mlの冷却液を、リザーバーに100mlを注入してください。

燃料ライン

シートを開け、収納ボックスを取り外し、次に識別カバー、識別カバーライニング、右サイドカバーインナーパネルを取り外してください。燃料ラインに損傷や漏れがないか確認してください。問題がある場合は、燃料ラインを交換してください。



ブレーキシステム

車両の前輪と後輪の両方にディスクブレーキが装備されています。正しいブレーキングは安全な走行にとって非常に重要です。資格のあるサービスショップにブレーキシステムの定期点検を依頼することを忘れないでください。

⚠ DANGER

- ブレーキは乗車者の人身安全を確保するために非常に重要です。ブレーキを頻繁に点検・調整し、ブレーキキャリパーの泥を定期的に清掃して、ピストンの動きを妨げないようにしてください。

⚠ DANGER

- ブレーキシステムのメンテナンスが必要な場合は、資格のあるサービスショップに行くことを強くお勧めします。完全な工具と熟練した技術を持ち、最も安全かつ経済的な方法で作業を完了できるためです。
- ブレーキシステムの点検とメンテナンスを怠ると、事故の可能性が高まります。走行前に必ず「走行前点検」の項目に従ってブレーキシステムを確認してください。定期メンテナンススケジュールに従ってブレーキシステムのメンテナンスを行ってください。

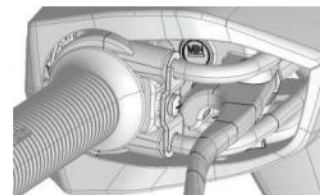
以下の項目に従ってブレーキシステムを点検してください：

- ブレーキ液シリンダーの液面を確認してください。
- 前輪および後輪ブレーキシステムに漏れの兆候がないか確認してください。
- ブレーキ液ホースに漏れや破損がないか確認してください。
- ブレーキディスクとブレーキパッドの摩耗を確認してください。
- 前後のブレーキを操作して、柔軟かつ効果的に機能するか確認してください。

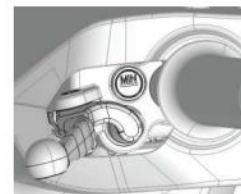
⚠ DANGER

- ディスクブレーキシステムは高圧で動作します。安全を確保するため、ブレーキ液ホースまたはブレーキ液の交換サイクルは、本書の「点検およびメンテナンス」の項目で指定された期間を超えないようにしてください。

Brake Fluid
Front Brake Fluid Cylinder



Rear Brake Fluid Cylinder



⚠ DANGER

- ブレーキ液は飲み込むと人体に有害であり、致命的な場合もあります。ブレーキ液は皮膚や目に接触すると有害であり、動物にも有毒です。万一飲み込んだ場合は、嘔吐を誘発せず、直ちに中毒管理センターまたは病院に連絡してください。ブレーキ液が目に入った場合は、きれいな水で洗い流し、医師に相談してください。手を十分に洗浄してください。子供やペットをブレーキ液から遠ざけてください。

⚠ DANGER

- 車両に使用するブレーキ液（DOT4）は、ほこり、不純物、ケイ酸塩または石油系液体と混ぜないでください。混ぜるとブレーキシステムに重大な損傷を与えます。開封した容器に保管されたブレーキ液を使用しないでください。前回のメンテナンスで残ったブレーキ液を使用しないでください。二輪車専用のブレーキ液のみ使用できます。ブレーキ液は塗装面やプラスチック面にこぼれると腐食する可能性があります。

前後のブレーキ液シリンダーの液面を確認してください。前後のブレーキ液シリンダーの液面が「MIN」マークより下の場合は、ブレーキパッドの摩耗とブレーキ液の漏れを確認してください。

ブレーキパッド 前輪



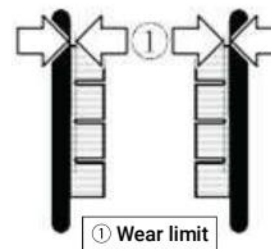
Rear Wheel



Lambretta

前輪または後輪のブレーキパッドが摩耗限界に達しているか確認してください。摩耗限界に達している場合は、当社指定の認定サービスショップでブレーキパッドを交換してください。

前輪／後輪ブレーキパッド



⚠ DANGER

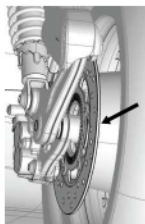
- ブレーキを頻繁に点検・メンテナンスしない場合、または交換が推奨されているにもかかわらず適時に交換しない場合、事故の可能性が高まります。ブレーキディスクの交換が必要な場合は、当社指定サービスショップで交換してください。推奨される方法に従ってブレーキパッドの点検とメンテナンスを行ってください。

- ブレーキシステムの整備またはブレーキパッドの交換後、前後のブレーキレバーを数回操作せずに車両を走行させると、制動性能が低下し、事故につながる可能性があります。ブレーキシステムの整備またはブレーキパッドの交換後は、ブレーキパッドがブレーキディスクに適切に押し付けられ、ブレーキレバーが通常の油圧抵抗に戻るまで、前後のブレーキレバーを数回操作してください。

⚠ WARNING

- 2枚のブレーキパッドのうち1枚だけを交換すると、ブレーキングが不均衡になります。2枚のブレーキパッドを同時に交換してください。
- ブレーキパッドが正しい位置にない状態でブレーキレバーを操作しないでください。ブレーキレバーを操作すると、ピストンのリセットが困難になり、ブレーキ液の漏れにつながります。

Brake Disc Front Wheel



前輪ブレーキディスクの点検の要点は：ブレーキディスクの厚さが3.5mm未満であるか確認することです。厚さが3.5mm未満の場合は、新品に交換してください。

後輪



⚠ DANGER

- 新しいブレーキディスクまたはブレーキパッドを交換した直後に車両を走行させないでください。ブレーキディスクとブレーキパッドが完全にフィットして通常の把持力が回復し、ブレーキ液が安定して循環するまで、ブレーキレバーを数回握って離してください。
- 新しいブレーキディスクまたはブレーキパッドを交換した後、制動距離が元の制動距離より長くなる場合があります。ブレーキディスクとブレーキパッドが約300km走行後に完全になじむことで最適な制動効果が得られます。それまでは、走行中に十分な制動距離を維持してください。

Tires

⚠ DANGER

- 以下の項目に注意を払わないと、タイヤの故障による事故が発生する可能性があります。タイヤは車両と地面をつなぐ非常に重要な部品です。以下のルールに従ってください：タイヤの状態とタイヤ空気圧を確認し、毎回走行前にタイヤ空気圧を調整してください。車両の過積載を避けてください。タイヤが摩耗限界に達した場合、またはタイヤ表面にひび割れや損傷がある場合はタイヤを交換してください。本書に記載されたサイズと仕様のタイヤを常に使用してください。取り付け後はタイヤのバランスを取ってください。本セクションを注意深くお読みください。
- タイヤのなじみが不十分だと、タイヤが滑り、車両の制御を失う可能性があります。新しいタイヤを装着した車両には特に注意してください。

▲ WARNING

- 「新しいタイヤのなじみ運転」の項目に記載された内容に従ってタイヤのなじみ運転を行い、新しいタイヤの最初の160kmでは急加速、急旋回、急ブレーキを避けてください。

タイヤ空気圧と荷重

正しいタイヤ空気圧と正しいタイヤ荷重は重要な要素です。過積載はタイヤの故障を引き起こし、車両の制御を失わせる可能性があります。

走行前に毎回タイヤ空気圧を確認し、タイヤ空気圧と荷重が以下の表の内容に適合していることを確認してください。走行前にタイヤ空気圧を確認・調整してください。走行後はタイヤが高温になり、タイヤ空気圧が上昇します。

タイヤ空気圧が低すぎると旋回が困難になり、タイヤの摩耗が加速します。タイヤ空気圧が高すぎると、タイヤと地面の接触面積が減少し、スリップや制御不能につながりやすくなります。

常温での推奨タイヤ空気圧

Standard tire pressure	Rider only	Rider & passenger
Front Wheel	29 PSI	29 PSI
Rear Wheel	29 PSI	31 PSI

注意：

タイヤ空気圧を定期的に確認し、上記の値を下回らないようにしてください。

注意：

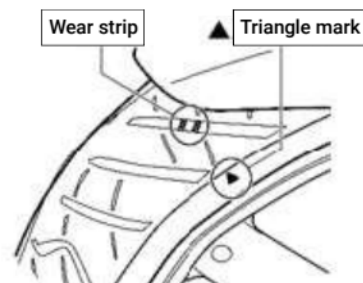
タイヤ空気圧の低下を発見した場合は、タイヤに釘が刺さっていないか、小さな穴がないか、リム側面に損傷がないか確認してください。チューブレスタイヤは小さな穴がある場合、徐々に空気が抜けます。

Lambretta

タイヤの状態と仕様

不適切なタイヤの状態と不適切なタイヤ仕様は車両の性能に影響を与えます。タイヤの損傷や傷はタイヤの故障を引き起こし、車両の制御を失わせる可能性があります。過度のタイヤ摩耗はタイヤのバンクを引き起こし、車両の制御を失わせる可能性があります。タイヤの摩耗はタイヤの外観にも影響し、タイヤの性能を変化させます。

使用前に毎回タイヤの状態と空気圧を確認してください。タイヤにひび割れや傷など多くの明らかな損傷がある場合、またはタイヤが摩耗限界に達している場合は、タイヤを交換してください。



注意：

三角マークはウェアストリップの位置を示しています。ウェアストリップが地面に接触している場合、タイヤが摩耗限界に達していることを示し、交換が必要です。

タイヤ交換時は、新しいタイヤのサイズとモデルが以下の表に示されたものに適合していることを確認してください。異なるサイズまたはモデルのタイヤに交換すると、車両の操縦性に影響を与え、車両の制御を失う可能性があります。

Front Wheel	Rear Wheel
110/70-12	120/70-12

⚠ DANGER

- 標準タイヤ以外のタイヤを使用すると問題が発生する可能性があります。標準タイヤの使用を強くお勧めします。

修理または交換後、タイヤのバランス調整が必要です。タイヤのバランス調整は非常に重要であり、タイヤと地面の不安定な接触や不均一な摩耗を避けることができます。

⚠ DANGER

- 以下の内容に従ってチューブレスタイヤのメンテナンスを行わないと事故が発生する可能性があります。チューブレスタイヤとチューブタイヤのメンテナンス方法は異なります。チューブレスタイヤのリムとビードの接触部分は密封されています。パンクを防ぐため、チューブレスタイヤの取り外しと取り付けには、タイヤリムとビードを保護するための専用工具と専用タイヤチェンジャーが必要です。チューブレスタイヤの小さな穴を修理するには、タイヤを取り外して内側からパッチを当ててください。外側からのパッチ方法は採用しないでください。旋回時のタイヤの遠心力によりパッチが緩む可能性があるためです。タイヤ修理後24時間以内は車両の速度を60km/hを超えないようにし、その後は95km/hを超えないようにしてください。速度がこれらの制限を超えると、タイヤが発生する急激な熱によりパッチが無効になり、パンクの原因となります。タイヤの側面が損傷している場合または損傷部分が6mmより大きい場合、タイヤは修理して使用することはできません。

⚠ DANGER

- タイヤ空気圧と表面の状態を常に確認すること。車両の機能と安全にとって非常に重要です。

ヒューズ

ヒューズ一覧

- 30A ABS作動電源
- 10A イグニッションロックおよび関連電気機器
- 10A ABS常時電源
- 20A BCMコントローラーおよび関連電気機器
- 10A 電子燃料噴射システムおよび負荷電源
- 10A メータークラスター、ECU、ジャイロ스코プ、OBD常時電源
- 5A USB電源出力

S/N	Specification (A)	Corresponding Part
1	5	Backup
2	20	Backup
3	10	Backup
4	10	Ignition switch
5	10	ABS
6	10	Electronic fuel injection system
7	20	BCM
8	10	Instrument cluster / gyroscope / ECU / OBD
9	5	USB
10	30	ABS
11	30	Backup

⚠ DANGER

- 規定仕様以外のヒューズを使用したり、ヒューズなしで直接接続したりしないでください。そうしないと、電気系統に重大な影響を与え、火災の発生、車両の焼損、エンジン出力の喪失を引き起こす可能性があります、非常に危険です。

⚠ WARNING

- 定格電流が指定されたヒューズを選択してください。アルミ箔やワイヤーなどの代替品を使用しないでください。ヒューズが短期間に頻繁に切れる場合は、電気系統に故障があります。直ちに当社認定サービスショップにオーバーホールを依頼してください。

トラブルシューティング

イグニッションシステムの点検..... (57)

エンジンの不調 (57)

トラブルシューティング

このセクションの詳細は、一般的な問題の原因を特定するのに役立ちます。

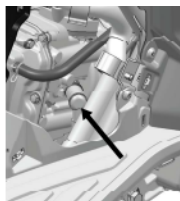
⚠ WARNING

- 不適切なメンテナンスと調整は車両を損傷し、故障原因の特定を困難にします。このような損傷は三包（修理、交換、または不良品の補償）の範囲外となります。正しい操作方法が不明な場合は、当社指定サービスショップにご相談ください。
- トラブルシューティングの前に、まず当社指定サービスショップにご相談されることをお勧めします。問題の解決に努めます。

エンジンが始動できない場合は、以下の点検により原因を特定してください。

点火システムの点検

- スパークプラグを取り外し、スパークプラグキャップを接続してください。



- スパークプラグをエンジンに置き、イグニッションスイッチを「I」の位置にし、エンジンストップスイッチを「RUN」の位置にし、

ブレーキレバーをしっかりと握ってください。電動スターターボタンを押してください。点火システムが正常に動作している場合、スパークプラグの電極間に青い火花が発生します。火花が発生しない場合は、当社指定サービスショップに修理を依頼してください。

⚠ DANGER

- スパークプラグ穴の周辺にスパークプラグを固定して上記の点検を行わないでください。シリンダー内の可燃性混合気がスパークにより着火する可能性があります。
- 感電の可能性を軽減するため、スパークプラグハウジングの金属部分をエンジン本体の未塗装金属部分に密着させてください。
- 感電による損傷の可能性を避けるため、心臓疾患または心臓ペースメーカーを使用している方はこの点検を行わないでください。

エンジン故障

- 燃料タンクに十分な燃料があることを確認してください。
- シンボル  が表示された場合、システムに問題があることを示します。車両を当社指定サービスショップに送ってください。ECU診断インターフェースに表示される故障情報に基づいて確認してください。
- 点火システムが正常に動作しているか確認してください。
- アイドリング速度を確認してください。（正しいアイドリング速度は $1,650 \pm 100$ rpm です。）

⚠ DANGER

- 燃料は容器に回収し、こぼれないようにしてください。燃料を高温のエンジンやマフラーに近づけないでください。この点検中は、煙、スパーク、火、または熱源から離れてください。

車両の保管、洗浄および移送について

保管.....	(59)
再始動にあたって.....	(59-60)
錆させないようにするために.....	(60)
洗車.....	(60-61)
洗車後の点検.....	(61-62)
移送・運搬.....	(62-63)

車両の保管、清掃および輸送

保管車両をしばらく使用せず、特別なメンテナンスが必要な場合、特別な材料、機器、技術が必要になります。そのため、当社指定サービスショップのいずれかでメンテナンスを行うことをお勧めします。ご自身でメンテナンスを行う場合は、以下の手順に従ってください：

車両

車両を十分に清掃してください。平らな地面にサイドスタンドで車両を駐車してください。ハンドルを左に回し、フロントエンドをロックしてキーを抜いてください。

燃料

燃料タンク内の燃料を、サイフォンまたはその他の適切な方法で適切な容器に排出してください。

エンジン

- スパークプラグを取り外し、プラグ穴にスプーン1杯の新しいオイルを注入し、スパークプラグを再度取り付けてエンジンのクランクシャフトを数回回転させてください。
- エンジンオイルを完全に排出し、クランクケースに新しいオイルを補充してください。
- エアフィルターの吸気口とマフラーの排気口を新しいオイルを含んだ布で覆い、湿気の侵入を防いでください。

バッテリー

- 「バッテリー」のセクションを参照してバッテリーを取り外してください。
- バッテリー表面を中性石鹼水で清掃し、端子と配線コネクターの錆と腐食を除去してください。
- バッテリーを0°C以上の屋内で保管してください。

タイヤ

タイヤ空気圧を規定圧力に調整してください。

車両の表面

- ゴム保護剤を樹脂部品とゴム部品の表面にスプレーしてください。
- 表面処理されていない部品の表面に防錆塗料をスプレーしてください。
- 塗装面に自動車用ワックスを塗布してください。

保管中のメンテナンス

バッテリーを月に1回充電してください。標準充電方法：0.1Cで8～10時間

再使用の方法

- 車両を十分に清掃してください。
- エアフィルターの吸気口とマフラーの排気口の雑物やほこりを除去してください。
- エンジンオイルを排出してください。オイルフィルターエレメントを交換し、本書の関連内容に従って新しいエンジンオイルを補充してください。
- スパークプラグを取り外してください。エンジンを数回回転させてください。スパークプラグを再度取り付けてください。
- 「バッテリー」のセクションを参照してバッテリーを再度取り付けてください。
- 車両が適切に潤滑されていることを確認してください。

- 「乗車前点検」のセクションに記載された内容に従って点検を実施してください。
- 本書の関連内容に従って車両を始動してください。

錆防止

車両を丁寧に整備し、錆防止に注意を払うことで、何年経っても新品のような外観を保つことができます。

以下の要因が錆による損傷を引き起こす可能性があります：

- 塩害道路での塩分の蓄積、汚れ、湿気、化学物質。
- 小石や砂利による塗装面の損傷、または衝突や擦り傷。塩害道路、海風、産業汚染、高湿度環境はすべて錆の原因となります。

錆を防ぐ方法

- 少なくとも月に1回は車両を洗車してください。車両をできるだけ清潔で乾燥した状態に保ってください。
- 車両表面の汚れを除去してください。塩害道路、化学物質、アスファルト、樹液、鳥の糞、産業排出物はすべて車両を損傷する可能性がありますので、できるだけ早く除去してください。水で落としにくい場合は洗剤で洗浄してください。ただし、洗剤使用時は洗剤の使用上の注意に従ってください。
- 損傷はできるだけ早く対処してください。車両の塗装面の損傷を注意深く確認してください。バリや傷が見つかった場合は、さらなる損傷を避けるためにすぐに修理してください。バリや傷が部品表面全体に及ぶ場合は、当社指定サービスショップで修理を依頼してください。

- 車両は乾燥した換気の良い場所に駐車してください。ガレージで頻繁に車両を洗車し駐車すると、ガレージが非常に湿気ます。高湿度は錆を促進します。換気が悪い場所では、高温環境下でも濡れた車両は錆びます。

- 車両にカバーをかけて、真昼の太陽から車両を保護してください。日光は塗装部品やプラスチック部品の変色、計器の色あせの原因となります。高品質な通気性のあるカバーを使用することで、日光の紫外線から車両を保護し、車両への汚れや大気汚染物質の蓄積を軽減できます。当社ディーラーがお客様の車両に適したカバー選びをお手伝いいたします。

車両の洗車

以下の手順に従って車両を洗車してください：

- 車両表面の汚れや泥を冷水で洗い流してください。柔らかいスポンジや柔らかいブラシを使用して車両を洗浄できます。硬い素材を使用すると外装部品に傷がつきます。
- 中性洗剤または自動車用石鹸、ガーゼ、柔らかい布で車両を十分に洗浄してください。ガーゼや柔らかい布は頻繁に洗剤に浸してください。

注意：

車両を塩害道路や海辺で使用した場合は、使用後すぐに冷水で洗車してください。必ず冷水を使用してください。お湯は 腐食を促進します。

注意：

以下の箇所に水が流入しないよう、高圧洗車機等による洗浄は避けてください：

1. イグニッションスイッチ
2. スパークプラグ
3. 燃料タンクカバー
4. 燃料噴射システム
5. ブレーキ液シリンダー

⚠ WARNING

● コイン洗車機の高圧水は車両を損傷し、錆、腐食、摩耗の促進を引き起こす可能性があります。部品洗浄機は車両を損傷する可能性があります。高圧水で車両を洗車しないでください。部品洗浄機で車両を洗浄しないでください。

- 車両表面の汚れを洗浄した後、流水で残留洗剤を洗い流してください。
- 十分にすすいだ後、湿った柔らかい革または布で車両を拭き取り、日陰で乾燥させてください。
- 塗装面の損傷を注意深く確認してください。損傷がある場合は、以下の手順で補修材料を使用して損傷を修理してください

表面：

- 損傷箇所を洗浄し、乾燥させてください。
- 補修材料を混合し、ブラシで損傷箇所に丁寧に塗布してください。
- 補修箇所を十分に乾燥させてください。

⚠ WARNING

● コイン洗車機の高圧水は車両を損傷し、錆、腐食、摩耗の促進を引き起こす可能性があります。部品洗浄機は車両を損傷する可能性があります。高圧水で車両を洗車しないでください。部品洗浄機で車両を洗浄しないでください。

車両のワックスがけ

- ワックスがけと洗浄後、車両にワックスをかけることをお勧めします。部品を保護するだけでなく、部品をより美しくすることができます。
- 高品質なカーワックスと研磨剤を使用してください。
- 自動車用ワックスおよび研磨剤製品の使用上の注意に従ってください。

洗浄後の点検

⚠ WARNING

● ブレーキが濡れた状態で車両に乗ることは非常に危険です。濡れたブレーキは乾いたブレーキと同じ制動力を発揮できないため、事故の原因となります。車両を洗浄した後、低速でブレーキシステムをテストしてください。必要に応じて、ブレーキパッドを乾燥させるためにブレーキを数回操作してください。

- 「乗車前点検」のセクションを参照して、使用後に発生した問題を確認してください。

輸送

燃料は非常に燃えやすく、特定の条件下で爆発を引き起こす可能性があります。車両の輸送前に燃料を抜き取る必要があります。燃料の抜き取り、保管、補充は裸火のない場所で行い、エンジン停止後に換気の良い場所で行ってください。燃料を抜き取る手順は以下の通りです。

- エンジンを停止し、イグニッションスイッチのキーを抜いてください。
- サイフォンまたはその他の適切な方法で、燃料タンク内の燃料を適切な容器に抜き取ってください。

WARNING

- 車両の輸送前に、燃料タンク内の燃料を確実に完全に抜き取ってください。
- 輸送中はオイル漏れを防ぐため、車両を通常の走行状態に保ってください。

バッテリー使用上の注意

- 新品バッテリーの使用
- バッテリーの外観を確認し、バッテリーケースに傷やひび割れがないこと、バッテリーキャップが緩んでいないこと、端子が傾いたり変形していないことを確認してください。
- 取り付け
 - まずプラス端子（+）（赤リード線）を接続し、次にマイナス端子（-）を接続してください。端子を逆に接続しないでください。レギュレートレクチャファイアやその他の電装部品が損傷します。
 - ボルトを締めした後、錆による接触不良を防ぐため、ボルト、ナット、端子にバターまたはワセリンを塗布してください。

rusting.

- 使用とメンテナンス
 - 始動時間は1回につき5秒を超えないようにしてください。数回試みても始動しない場合は、燃料供給システム、始動および点火システムを点検してください。
 - 以下の状況はバッテリーの過放電または充電不足を引き起こし、バッテリーの寿命を短くします。
 - a. 頻繁な電気始動と短い走行距離；
 - b. 長時間の低速走行；
 - c. 走行中にブレーキハンドルを握り続けてブレーキランプを常時点灯させること；
- および
- d. 追加の電装アクセサリーの取り付けや、より高いワット数の電球への交換。

- スターターモーターの回転速度低下、ライトの減光、ホーン音の低下が見られた場合は、直ちに再充電してください。
- 車両を長期間使用しない場合は、保管前に[B] バッテリーを充電し、その後は月に1回充電してください。

充電

- 車両用バッテリー専用の充電器を使用してください。バッテリーキャップを外さないでください。充電中は室内の換気を良くし、裸火を避けてください。
- 充電方法には標準充電と急速充電があります。緊急時を除き、バッテリーの寿命を延ばすためできるだけ標準充電方式を採用してください。

注意事項

- いかなる場合もバッテリーキャップを外したり、電解液や水を補充しないでください。
- バッテリーの使用または充電中は裸火に近づかないでください。バッテリーの爆発を防ぐため、プラス端子とマイナス端子間のショートや、プラス端子とマイナス端子の緩みを避けてください。
- 電解液には強酸が含まれていますので、革シート、衣類、または目に付着しないよう注意してください。万一付着した場合は、直ちに大量の水で洗い流し、その後病院を受診してください。誤って飲み込んだ場合は、直ちに 病院を受診してください。
- 電解液はお子様の手の届かない場所に保管してください。]

燃料消費量

燃料動力の車両において、「燃料消費量」とは、最も燃料消費が少ない所定の速度における車両の燃料消費量を意味します。

テクニカルデータ（仕様諸元）

寸法尾及び重量		
全長		1,890mm
全幅		740mm
全高		1,150mm
軸距		1,340mm
最低地上高		110mm
シート高		780mm
車両重量		139kg
車両総重量		289kg
エンジン		
形式		水冷4サイクルSOHC4バルブ
シリンダー数		1
シリンダー内径		62mm
行程		57.8mm
排気量		175cc
圧縮比		12:1
始動方式		電気式
潤滑方式		圧送及び飛沫式
最高出力		12.5Kw/8,500rpm
最大トルク		15.5N・m/6,500rpm
トランスミッション		
クラッチ		遠心式クラッチ
トランスミッション形式		CVT（無段階変速機）
一次減速比		0.780-2.360
最終減速比		8.702

主要性能指標		
燃料消費量		2.5L/100km
最高速度		110km/h
登坂能力		≥ 20°
走行システム（機能）		
最小旋回半径		4.3m
フロントタイヤサイズ		110/70-12
リアタイヤサイズ		120/70-12
電装システム		
点火方式		ECU control
スパークプラグ品番		BN8RTC (TORCH)
バッテリー仕様		12V/6.5Ah
ヒューズ仕様		10A (4 fuses), 5A (1 fuse), 20A (1 fuse), 30A (1 fuse)
ヘッドライト仕様		13.5V, 19W/9W
フロントポジションライト仕様		13.5V, 1.6W
ウインカー仕様		13.5V, 4W/4.5W
テール/ストップライト仕様		13.5V, 2.3W/3.9W
ナンバー灯仕様		13.5V/0.5W
容量		
燃料タンク容量		9.0L
エンジンオイル量		0.85L(分解時)/0.8L(交換時)
ギアオイル量		0.15L（分解時） / 0.12L（交換時）
冷却液量		0.55L
エンジンオイルタイプ		SAE10W-40 MOTUL SCOOTER POWER
クーラントタイプ		LEC-II-40（オーガニックタイプ）不凍液
ギアオイルタイプ		85W-90 MOTUL MOTYLGEAR
ブレーキフルードタイプ		DOT-4/MOTUL DOT4（GB 12981-HZY4品質規定準拠）



lambretta.com